

教育・研究

●12/26(西日本)

## 須恵町と包括連携協定を締結しました

九州産業大学と九州産業大学造形短期大学部は、須恵町と協力して「まちづくり」推進と、学術振興および人材育成を図ることに合意し、包括連携協定を締結しました。

締結式で平松秀一須恵町長は「若い人たちが地域の中で、自分たちができることや自分が持っている能力をいかに発揮するか、それが町にどれだけの影響を与え文化に貢献するか、この協定で両者の繋がりを深めていきたい」と述べ、北島己佐吉大学長は「須恵町のまちづくりと学術の振興、人材育成に寄与していきたい」と語り、小田部黄太短期大学部学長は「自分たちの学びが社会に繋がっていく実践的な学びの場として今後も活動していきたい」と抱負を述べました。

本学はこれまで須恵町でコミュニティバスの運行管理支援業務委託や再生エネルギー導入のアドバイスのほか、町のアート活動として九州自動車道高架下等の壁画制作や久我記念館での作品展・ワークショップなどを行ってきました。

この協定により、地域に根差した産学連携の拠点として大学の研究を生かした地域の課題解決を行うなど、両者がより発展する取り組みが期待されます。



教育・研究

●11/24(KBC)、12/30(西日本・読売)、12/1(毎日)、12/4(FBS)、12/8(KBC)

## ランドセルで繋ぐ思い出の輪！ ランドセル+αプロジェクト



12月2日福岡県久留米市で、子どもたちがランドセルを背負って楽しみながら通学体験するゲームの企画と、その場でランドセルを持ち帰ることができる中古ランドセルの譲渡会「ランドセルランド」が開催されました。

この取り組みは、造形短期大学部とNPO法人「次世代のチカラFUKUOKA」が協力し開催したもので、昨年度に続き2回目です。当日は、会場の入り口に130個のランドセルが展示され、子どもたちはお気に入りのランドセルを背負ってゲームに参加しました。ゲームには、ダンボールで作られた文房具を正しく収納するゲームや、交通安全について学ぶゲームなどがありました。ゲームクリア後、ランドセルの持ち帰りを希望する方には、本学の学生がデザインしたオリジナル化粧箱に入れてお渡ししました。

譲渡に加え、今年はその場でのランドセルの寄付も受け付け、1日で59個のランドセルが持ち込まれました。

参加者からは、「綺麗な状態のものばかりで驚いた」「偶然立ち寄ったが、子どもがゲームに参加してランドセルを気に入り持ち帰ることにした」「大切に使ったものを引き継ぐとても良い取り組み、ぜひ続けてほしい」などの声がありました。

教育・研究

●12/12(RKB)、12/20(西日本)

## JR香椎駅で薬物防止キャンペーンを実施



12月12日から14日までの3日間、学友会執行部の学生がJR香椎駅構内で「薬物等乱用防止キャンペーン」を実施しました。このキャンペーンでは、福岡県警察や関係機関、ボランティア団体と協力して、大学や地域における薬物乱用防止に関する啓発活動を行いました。

学生たちは、オリジナル除菌シート(約2,400枚)と啓発チラシ等を配布しました。また、本学芸術学部ソーシャルデザイン学科の学生がデザインした啓発チラシも配布されました。

本学では、薬物乱用防止に関する講演会の開催や制作した啓発動画の授業内での視聴、違法薬物等に関する学生アンケートの実施など、継続的な啓発活動に取り組んでいます。キャンペーンには、東警察署、公益社団法人福岡県防犯協会連合会、一般社団法人福岡県警友会、福岡女子大学が協力しています。

教育・研究

●12/23(西日本)

## 「地域貢献SDGsプロジェクト」 久山町に寄付

12月15日、商学部の学生が企画・実施した「地域貢献SDGsプロジェクト～古着回収イベント～」内の収益金82,220円を糟屋郡久山町に寄付しました。

同プロジェクトは「トリアス」、「株式会社ありがとうサービス」、「一般社団法人日本アップサイクル協会」との産学連携による取り組みで、10月に糟屋郡久山町の商業施設「トリアス」で行った古着回収イベントでは約1,300着の洋服が集まり、11月3日～5日に行われた本学大学祭「香椎祭」で販売しました。

売り切れなかった古着は「株式会社ありがとうサービス」に買い取っていただき、今回、「子育て支援に役立てて欲しい」という思いとともに、収益金を久山町長に贈呈しました。



教育・研究

●12/10(KBC・FBS)、12/14(西日本)

## 100人を超えるサンタが街を行進!



12月10日、経済学部の学生20人が中心となって企画したチャリティイベント「福岡サンタウォーク in 千早2023」が開催されました。

このイベントは、入院生活を経験した子どもたちにとって、クリスマスが一番寂しい日であるという声を受け、「もっとも人との繋がりを感じられる日」になるように願い、参加費から得た収益金で病気に立ち向かう子どもたちへクリスマスプレゼントを贈ることを目的としています。

イベント当日は、地元のゴスペル集団「all fruits」の演奏と本学体育会執行部チアリーダー VIGOROUSのパフォーマンスによるオープニングセレモニーが行われ、サンタクロースに扮した参加者約160人は、「ガーデンズ千早」のちはや公園を元気に出発し、国道3号線を越えてなみきスクエアを回り、ちはや公園に戻る約40分のコースを笑顔で行進しました。

イベント終了後、参加費から衣装代などの経費を除いた収益金とプレゼントの絵本・DVDは、本学芸術学部の学生が作成したトリックアートを届ける姉妹プロジェクト「TRICK ART PROJECT2023」とともに、福岡市立こども病院(福岡市東区香椎照葉)に寄贈されました。



教育・研究

## クリスマスアドベントに学生がSDGsに配慮した店舗を出店！

株式会社サエキジャパンと連携した学部横断型科目の実践クロス演習「世界一のクリスマスを作ろう」を受講する1・2年生29名は、12月11日から17日までの期間限定で、福岡市中洲の貴賓館前広場にブースを出店する「サンキュープロジェクト」に取り組みました。SDGsに配慮し、鹿もも肉のステーキなどのフードや古着販売を行いました。鹿もも肉は害獣駆除された鹿を材料とし、古着販売を行うことで、ファストファッションの流行から社会課題となっている古着の大量破棄問題にもアプローチする取り組みです。

学生たちは、株式会社サエキジャパン代表取締役でクリスマスアドベント総合プロデューサーの佐伯岳大氏（本学OB）による講義を受け、イベント開催に込められた想いや目的を理解し、出店に向け企画コンセプトの設定や、商品開発、広報活動を行い、実践的な店舗運営のオペレーションを学びました。



教育・研究

●12/6(西日本)

## eスポーツで広川町を元気にする取り組みが始まりました

福岡県八女郡広川町では、高齢者、子ども、障がい者など、それぞれの垣根を超えた交流機会の創出を目的に、「eスポーツによる地域活性化事業」を実施しています。人間科学部スポーツ健康科学科磯貝浩久教授が参加しており、eスポーツが心身にもたらす影響に関する研究にも着手します。12月2日には、同事業のキックオフイベント「eスポーツ体験会」が開催されました。磯貝教授は「本事業では、eスポーツ普及のための体験会やそれらに関わる人材育成の実施、効果検証、研究を行い、特に高齢者の認知症予防に関する効果検証、研究に力を注ぎたい」と語りました。



教育・研究

## ETロボコン2023で理工学部の2チームが入賞！

11月16日(木)、17日(金)に開催された「ETロボコン2023チャンピオンシップ大会」には、理工学部情報科学科から九州大会予選を勝ち抜いた2チームが出場しました。3年生チームの「KERT-B3」チームは基礎スキル(★★レベル2)となるプライマリークラスに出場し、競技部門で3位に入賞しました。4年生チームの「Smart SPiNaCH」チームは応用スキル(★★★レベル3)となるアドバンスクラスに出場し、競技部門3位で入賞し、モデルシートの審査も含めた総合部門3位で輝きました。



教育・研究

## スポーツ栄養学の知識を活かす！学生が開発したメニューが商品化へ



人間科学部スポーツ健康科学科の学生が開発したアスリート向けメニューが本学学食にて商品化されました。商品化された新メニューは、

栄養バランスを考えたドリアと三色丼の2種類です。ジャガイモの明太子入りクリームドリアは、運動時のエネルギー源として重要な糖質を無理なく摂取できるように工夫されています。また、たんぱく質が摂れる鶏むね肉やブロッコリーや、アスリートに不足しがちなカルシウム、鉄分を豊富に含む食材を採用しています。三色丼は、鉄分が摂れるほうれん草などの具材を細かくして、どの季節でも食べやすいように工夫して作られており、どちらのメニューもアスリートに合わせた量と栄養バランスを考慮したメニューになっています。

三色丼(400円)は8号館売店と1号館2階の売店にて火曜日限定でテイクアウト販売中、ドリア(700円)は1号館1階学食「オアシスレストラン」で提供中です。

## 2月の行事予定

- 一般入試(前期日程)  
日時：2月1日(木)～3日(土)、7日(水)、8日(木)
- 芸術学部と大学院芸術研究科 卒業・修了制作展「九芸卒展2024」  
日時：2月16日(金)～23日(金・祝)  
場所：芸術学部棟



教育・研究

●10/27(NHK・FBS)、10/28(読売)、11/7(西日本)  
11/26(毎日)、11/29(産経)、12/1(朝日)

## 福岡県警×九州産業大学 ニセ電話詐欺被害防止ハンドブックを制作



ニセ電話詐欺被害防止を目的とした「電話対応ハンドブック」を制作した人間科学部臨床心理学科、芸術学部ビジュアルデザイン学科、国際文化研究科臨床心理学研究分野の学生5名と、教員2名が、ニセ電話詐欺被害防止に大きく貢献したとして、福岡県警察本部生活安全部長から感謝状が授与されました。同ハンドブックは、高齢者が見やすく、詐欺の手口を理解しやすいように

工夫されています。内容や文言の表現については臨床心理学科三國牧子准教授、紙面のデザインはビジュアルデザイン学科真島猛教授指導のもと制作し、被害者に高齢者が多いことから自覚しやすい言葉選びや、目に留まりやすいアイコン・配色といった、日頃学生が学んでいる手法を盛り込んだ冊子となっています。

今回作成したハンドブックは、福岡県警の広報啓発活動で使用されます。

教育・研究

●11/7(西日本)

## 青空の下で元気に！ 「仲原幼稚園外壁アートプロジェクト」完成



「学外アートプロジェクト」として、造形短期大学の学生がリニューアルに取り組んだ粕屋町立仲原幼稚園の外壁が完成しました。

このプロジェクトは、粕屋町、造形短期大学部同窓会薫風会および造形短期大学部が連携したもので、同幼稚園のシンボルとなるよう、子供たちが大好きな動物をモチーフにイラストを描きました。

完成した外壁の引き渡し式では粕屋町箱田彰町長、同幼稚園吉武園長、園児代

表より御礼の言葉と記念品の贈呈が行われ、引き渡しのテープカットを行いました。

キャンパス

## KSUアスリートの功績を一挙紹介！ ヘリテージコーナーが完成

本学が創立した1960年から現在に至るまで歴代アスリートが残してきた数々の功績を一挙で紹介する「ヘリテージコーナー」が大楠アリーナ2020館内に誕生しました。

「本学スポーツの熱を、人のぬくもりをリアルに体感できる空間」をコンセプトに、創設者である中村治一郎先生の本学スポーツに対する言葉『Step By Step One Goes Far』をキーフレーズとしてデザインされています。

2階交流ラウンジ内の壁面は、サークル活動などにおいて卒業生や学生の功績と競技写真からなるウォールグラフィックを設置。また、同エリア内の展示台には、世界大会の優勝トロフィーや実際に使用した競技ユニフォームなどを展示しています。

1階エントランスには書棚をイメージした木製KSU型のディスプレイケースを設置し、本学アスリートの輝かしい功績を称えた様々なアイテムを展示しています。



教育・研究

●11/29(西日本)

## 篠栗北地区産業団地「IRUGASAS (イルガーサ)」学生がウォールアートを制作しました



篠栗町の篠栗北地区産業団地「IRUGASAS(イルガーサ)」の開発に伴い、芸術学部ビジュアルデザイン学科の学生が地区の一角にある階段にウォールアートを施しました。

「新たに開発されたこの地域を人々がより身近に感じられる場所にしたい」という同町の要望を受けた、芸術学部ビジュアルデザイン学科の学生5人と同学科水間景子助教がデザインし、8月に約5日間かけてペイントを施しました。

デザインは、篠栗町の豊かな自然を背景に生まれた産業から、多くの刺激や交流が次々と生まれていくことを「栗」が転がる造形で表現しています。また、景勝地の篠栗四国八十八カ所霊場は、篠栗の地にさまざまな人々の祈りが集う場所でもあることから、この地が多くのの方々の願いを叶える場所となるように「祈」の文字をモチーフにデザインしたタイポグラフィを造形要素として施しています。

教育・研究

## 第55回「香椎祭」を開催しました



11月3日(金・祝)～5日(日)の3日間、第55回「香椎祭」を開催しました。今年は4年ぶりに制限なしでコロナ以前の規模で開催し、連日学生や地域の方で賑わいました。今年のテーマは「COLORFUL」。文・理・芸の多彩な学部学科があり個性豊かな学生が集う本学を象徴するテーマとなっています。

期間中、作品展示やステージ企画、マルシェなどさまざまなイベントが実施されたほか、約80店舗の模擬店が軒を並べ、キャンパス内は学生と各ブースを楽しむ来場者の活気で満ち溢れ、3日間で約12,000人が来場しました。

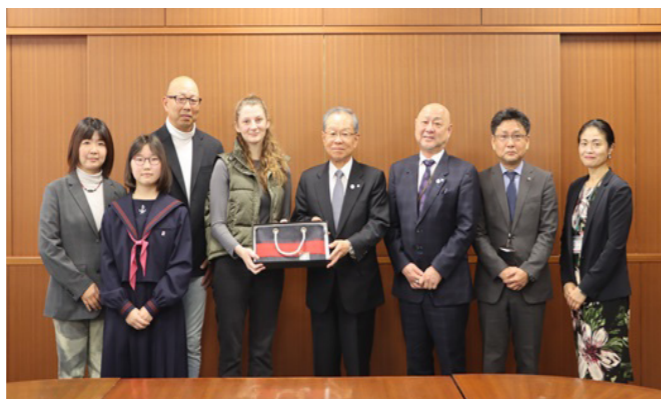


教育・研究

## ウクライナ人学生支援 理事長に帰国前の挨拶を行いました

2022年7月より短期滞在学生として本学で学んでいるウクライナ人学生アナスタシア・ペテリーナ・ハルチェンコさんが、母国で在籍する大学の卒業に向けて11月24日（金）に帰国することとなり、日本での生活サポートを行った結城ご家族と共に11月14日（火）に津上賢治理事長へ帰国前の挨拶を行いました。

ハルチェンコさんは「九産大では日本語の授業をはじめ、芸術学部でも新しい分野の学びにたくさんチャレンジすることができ、学ぶことの楽しさを知ることができました。滞在をサポートしていただきありがとうございます。この経験をもとに、将来日本とウクライナの架け橋になれるように頑張ります」と話しました。



教育・研究

## 福岡市水道局で プロジェクションマッピングイベント を開催しました！

11月3日（金・祝）・11月4日（土）、福岡市水道局本庁舎（福岡市博多区）にてプロジェクションマッピングイベントを開催しました。

このイベントは「博多旧市街ライトアップウォーク2023」とのコラボ企画として、福岡市水道事業創設100年を記念して本学と福岡市水道局が開催したものです。

「水の循環」をテーマに、水道局本社の壁面全体にカラフルな海の生物が泳ぎ回る空間演出作品「BUBBLEs！夜のカラフル水族館」を投影し、水の中のような空間を演出しました。プロジェクションマッピング投影に使われた電力は、水素バス「Moving e」が発電したものです。



教育・研究

## 玄海みらい学園の生徒と 留学生が交流しました

11月10日（金）に玄海みらい学園の5年生38名、6年生49名の生徒が来校し、留学生12名と交流しました。

この交流会は玄海町の紹介と異国文化に理解を深める目的で実施されたものです。前半は留学生が自己紹介と各国についてのプレゼンテーションを行い、みらい学園の生徒は玄海町や学園について英語で説明を行いました。後半には留学生が4組に分かれて母国の文化や日本の遊びとの違いなどを説明しました。



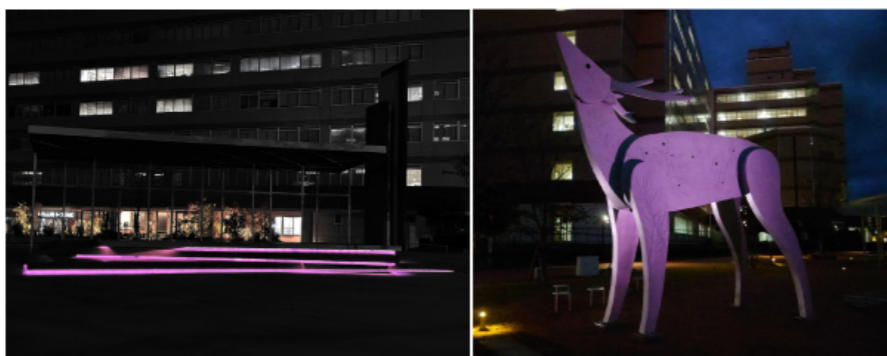
キャンパス

## キャンパス内で「パープル・ライトアップ」を 実施しました

内閣府男女共同参画推進本部が推進する「女性に対する暴力をなくす運動（11月12日～25日）」に賛同し、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなみ、鹿モニュメント「WILL GATE」と2号館前広場ステージを紫色にライトアップする、パープル・ライトアップを実施しました。

パープル・ライトアップは、女性に対するあらゆる暴力の根絶を広く呼びかけるとともに、被害者に対して、「ひとりで悩まず、まずは相談をしてください。」というメッセージが込められています。

ライトアップの施工は理工学部電気工学科貞方講師及び電気工学研究部の学生が中心となり取組しました。



1月の行事予定

- 大学入学共通テスト 1月13日（土）、14日（日）
- 後学期定期試験 1月15日（月）～1月20日（土）
- KSUチャレンジマンス 1月21日（日）～3月21日（木）



スポーツ

## 令和5年度理事長賞学生表彰式を行いました

10月26日（木）、令和5年度理事長賞学生表彰式を行いました。

この賞は全国規模において取めた成績が極めて顕著であり、他の模倣となる学生に贈られるもので、今回は「第35回フィンスイミング日本選手権大会」において、400mSF※で優勝、800mSFで準優勝した経済学部経済学科4年の濱野真拡さん（九州産業大学付属九州高校）と、「第24回ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会」のジュニア93kg級（対象19歳～23歳）において、重量180kgを挙げて優勝した商学部経営・流通学科4年の武田大和さん（九産大付属九州産業高校）が受賞しました。

※呼吸法としてシュノーケルを使用。スタートとターンを除いて身体の一部が水面から出ていなければならないが、腕のかき方は自由な泳法。



教育・研究

## 国際文化学部 ミシガン州立大学への 語学留学制度がスタート!

国際文化学部では本年度から、米国ミシガン州にあるミシガン州立大学附属英語センター（Michigan State University, English Language Center）への新留学制度を開始しました。これは、現地のセメスター（秋学期：15週間）に合わせて同センターで学ぶ短期集中型の語学留学制度で、本制度では現地での学費が一部減額されます。

ミシガン州立大学は、全米大学ランキングTOP100に入る優れた大学で、さまざまな分野で全米をリードしています。特に英語教育には定評があり、集中的に英語を学びたい学生や社会人を世界中から受け入れています。

8月から現地で学んでいる国際文化学科3年生の松山晃輔さん（日田林工高校）は「アメリカの広大なキャンパスで、現地の文化を学びながら、英語力のスキルアップをするために学習しています。さまざまな国から訪れている留学生との生活を通して、日本のことも伝えるられるよう頑張っています。大変な時もありますが、毎日が充実しています」と語りました。



教育・研究

## ベトナムハノイで留学相談会・ 筑後うどんのプロモーションを実施

9月10日（日）、商学部経営・流通学科の船岡健太教授のゼミ生で「ベトナム向け筑後うどんの新メニュー開発プロジェクト」に取り組む学生が、ベトナムのハノイで、日本への留学を検討しているベトナム人を対象にした留学相談会・大学紹介と、現地バイヤーに向けた「筑後うどん」のプロモーションを実施し、留学を検討しているベトナム人や現地バイヤー 30人以上が来場しました。

留学相談会・大学紹介ではベトナム語の訳を付けたパワーポイントを活用し、日本人学生による説明をベトナム人留学生が通訳しながら、日本での大学生活、国際交流、留学生向け就職支援などを紹介しました。

筑後うどんのプロモーションでは、ベトナムを含む海外進出に取り組む「たけ屋」のうどんに、具材をカスタマイズできる試食会を実施。人気の具材から味の好みを調査しました。バイヤーから具体的な販売時期の相談などもあり積極的に筑後うどんのPRを行いました。



教育・研究

## ハワイ大学ウエストオアフ校が来学

10月10日（火）、ハワイ大学ウエストオアフ校のMaenette Benham学長を含む5名が、本学北島己佐吉学長らとの意見交換および施設見学のために来学しました。

ハワイ大学ウエストオアフ校外国語学部と本学地域共創学部は、2019年に学部間協定を締結しており、今回、両大学の学術・学生交流をさらに拡充することを目的に懇談を行いました。

懇談会は、同大学の教員から本学に贈られた「私たちはオハナ（=家族）」という言葉からスタートし、これまでの取り組みや、今後発展させたいプログラムをテーマに話し合いました。



教育・研究

## グローバル・フードビジネス・プログラム 宗像市大島で「島の食」の調査を実施

9月23日（土・祝）、24日（日）、グローバル・フードビジネス・プログラム（GFBP）の1年生12名と教員2名が、福岡県宗像市大島の食について調査を行いました。

今回は、世界文化遺産に登録されたことでも知られる、福岡県で一番大きな島、宗像市大島をフィールドとして、島の人々と共に「島の食」を学ぶことを計画し、学生の視点で、受け継がれる食文化、農業、漁業、島の人々の営みについてインタビューを行いました。



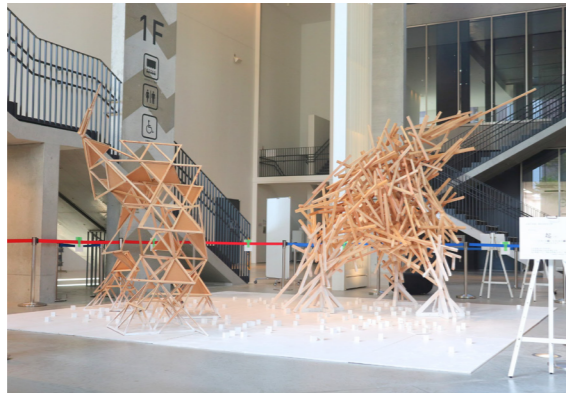


教育・研究

## 東区芸術文化祭メインオブジェを学生が制作

芸術学部芸術表現学科と生活環境デザイン学科の学生が、10月1日（日）～12月31日（日）まで福岡市東区で開催される「東区芸術文化祭」のメインオブジェを制作しました。

今年の作品のタイトルは「起」。「再生・復活・Reborn」をテーマに大小さまざまな木片を使い2体のオブジェを制作。コロナ禍での不自由な日常からの復活をイメージし、倒れかけた姿勢から力強く立ち上がる人を基盤とした、高さ約3.2m×幅約5.5m×長さ約5.5mの作品が完成しました。



スポーツ

## 「第72回全九州大学空手道選手権大会」3種目で優勝！

10月15日（日）、「第72回全九州大学空手道選手権大会」が開催され、空手道部の男子が団体組手・団体形で優勝、女子が団体組手優勝を果たしました。

同大会で、男女ともに団体組手での優勝は、16年ぶり。男子団体形での優勝は、種目が整備されて以降、初の快挙です。今回優勝した空手道部は、11月19日（日）に日本武道館で開催される第67回全日本大学空手選手権大会に出場します。



教育・研究

## 古着を回収・販売し、子供たちに関わる事業に寄付「地域貢献SDGsプロジェクト」



10月1日（日）、商学部の「経営実践演習」を学ぶ3年次生チームが久山町の商業施設「トリアス」で古着回収プロジェクトを開催しました。

このプロジェクトは、「トリアス」、「株式会社ありがとうサービス」、「一般社団法人日本アップサイクル協会」と共働にて取り組む『地域貢献SDGsプロジェクト』の一環として行われたもので、収集された古着は、11月3日（金）～5日（日）に行われる香椎祭にフリーマーケットとして販売しました。

売上金は、久山町に全額寄付し、子供たちに関わる事業に使用されます。

教育・研究

## 柿右衛門様式窯の窯開きで約500点の作品を窯出しました

10月25日（水）、本学柿右衛門様式窯で今年2度目の窯開きを行い、直径30センチを超える大皿からお茶碗など大小さまざまな約500点の作品が窯から取り出されました。

今回は、本学芸術学部生活環境デザイン学科工芸デザイン専攻陶芸コースおよび造形短期大学の学生の作品に加え、10月7日（土）に本学で開催した「香住丘校区陶芸体験教室」に参加した地域の方々の作品も含まれました。

体験教室に参加し、窯入れ・窯開きを見学した方は「初めての陶芸体験で、自分で作ったものが完成して窯から出るまで一連の作業を見間近で見られたことはとても興味深かった」や「近くにこのような窯があることを知らなかった。機会があれば是非また参加したい」と話しました。

今回制作された作品の一部は12月にアートギャラリーで開催する作品展に展示されます。



スポーツ

## 準硬式野球部 通算50回目！12季連続優勝

準硬式野球部が令和5年度福岡県準硬式野球秋季リーグ戦で10戦全勝し、12季連続優勝を成し遂げました！

また今回の優勝は、1994年に同リーグで最初の優勝を果たしてから、通算50度目の優勝になります。引き続き、11月4日（土）から開催される第27回九州地区大学準硬式野球秋季大会へ挑みます。



12月の行事予定

- 公開講座 筑豊炭田の歴史と文化【全3回】  
日時：12月6日（水）、13日（水）、20日（水）  
各回13時40分～15時10分  
会場：1号館3階S304番教室  
講師：国際文化学部 日本文化学科 川松あかり講師
- 後学期授業終了 12月25日（月）
- 年末年始休日 12月26日（火）～1月4日（木）



教育・研究

●ケーブルテレビ佐伯(9/7)、大分合同新聞(9/12)

## 大分県佐伯市の観光について市長と意見交換を行いました

9月3日(日)～5日(火)、地域共創学部観光学科の教員4名と学生6名が大分県佐伯市の観光振興のため、同市の観光資源視察モニターツアーに参加し、同市市長との意見交換を行いました。

今回の取り組みは、山、川、海の自然の循環を観光視点で考え、自然の恵みを体感できる観光プログラムの開発に取り組む同市からの依頼で、若い世代をターゲットに新たな観光コンテンツ開発につなげるため、本学へ協力依頼があり、実現したものです。

2日目に行われた市長との意見交換会では、「佐伯市の観光発展のためにはどうすべきか」をテーマに、教員と学生からさまざまな視点でアイデアが飛び交い、学生は市長や市の職員と熱い議論を繰り広げました。



教育・研究

## 芸術学部伊藤敬生教授がデザインした「mu」が「2023年度グッドデザイン賞」を受賞!

芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生教授がデザインした海洋プラスチック生まれの石けんケース「mu(ムー)」が、昨年の「第24回福岡デザインアワード」大賞受賞に引き続き、「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

「mu」は、伊藤研究室が行っている海洋プラスチックごみアップサイクルプロジェクト「SEA you again」の一環として、NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会、小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で開発しました。

海洋プラスチックごみが姿を変えたせっけんケースは、小値賀島の海岸で採取した石で型を取りデザインした手になじむサイズ感です。また、「mu」という名前には、「ごみ」という言葉や海洋プラスチックごみを「無=0(ゼロ)」にしたいという思いとともに、ケースに入っているシャボン玉石けんの「無添加=0」の意味も込められています。

審査員から「地域における課題を浮き彫りにし、その周知や解決に対して一石を投じる、完成度の高い見事なプロダクトである」と高い評価を受けました。



教育・研究

## 本学卒業生で「福岡クリスマスマーケット」の生みの親、佐伯岳大氏による講演会を開催

9月25日(月)、学部横断型科目「実践クロス演習」の授業の一環として、本学卒業生で株式会社サエキジャパン代表取締役の佐伯岳大氏による講演会を開催しました。

佐伯氏は、昨今福岡の冬の定番イベントとして開催される「福岡クリスマスマーケット」の総合プロデューサーで、地域に根ざしたさまざまなイベントを手がけています。

今回は、「世界一のクリスマスを目指して」と題し、在学中に起業した経験や、ドイツの“人”が主役のクリスマスマーケットで感じた感動を福岡の街でも創り出したいという思いから、初めての「福岡クリスマスマーケット」を2013年に開催するまでの挫折や逆境をどう乗り越えてきたのか、また、同イベントの将来的な構想について語りました。

同科目では株式会社サエキジャパンと連携し、市場調査や企画コンセプト設定などを行い、今冬に開催される「福岡クリスマスマーケット」の企画・運営に学生が携わります。



教育・研究

## 北九州市のまちについて市長とランチトークをしました

10月2日(月)、建築都市工学部 住居・インテリア学科の教員4名と3年生24名が北九州市内の企業視察のため、同市が大学生対象に主催したバスツアーに参加し、北九州市の武内和久市長と意見交換を兼ねたランチトークを行いました。

ランチトークでは、武内市長の他、産業経済局の職員も参加し「北九州市の印象やポテンシャル」をテーマに学生が感じている北九州市の率直なイメージや、建築物についてなど、忌憚りの無い意見が飛び交いました。





教育・研究

「全国地域安全運動モデルポスター」  
福岡県一般の部で最優秀賞受賞!



10月3日(火)、全国防犯協会連合会主催の「全国地域安全運動モデルポスターコンクール」の表彰式が本学で開催され、芸術学部ビジュアルデザイン学科1年の陣内来海さん(佐賀北高校)が福岡県一般の部で最優秀賞を受賞しました。

陣内さんの作品は、日常生活の中で防犯の視点を持って見守り活動をする「ながら防犯」をテーマとし、地域全体で子どもを守るという意味

が込められています。また、防犯に取り組む人々に腕章などを付けることで、キャッチコピーがなくても何のポスターなのか伝わるように工夫されています。

この他にも同学科6名の学生が優秀賞や佳作を受賞しました。

スポーツ

●読売・西日本(10/1)、西日本(10/2、10/3)

硬式野球部全勝優勝!!  
福岡六大学野球 秋季リーグ戦

9月30日(土)、第52回福岡六大学野球秋季リーグ戦優勝をかけて九州共立大学との試合に臨んだ硬式野球部は、3対1で勝利し、2季連続46度目のリーグ優勝に輝きました。

さらに翌日、10月1日(日)の九州共立大学戦も延長タイブレークの末、8対6に競り勝ち、全勝でのリーグ優勝を決めました。

次は、明治神宮野球大会九州代表をかけ、全九州大学野球選手権大会に出場します。会場は、いずれも福岡PayPayドームにて開催されます。



準決勝 10月31日(火) 9:00 ~

決勝 11月1日(水) 10:00 ~

教育・研究

「第78回福岡県美術展覧会(県展)」  
彫刻部門、最高賞受賞!

「第78回福岡県美術展覧会(県展)」において、芸術学部芸術表現学科2年の山上奏人さんが、彫刻部門の最高賞である「福岡県知事賞」を受賞しました。受賞作「反脆弱性」は、バッタをモチーフに、溶接の習作をテーマとした縦200cmの鉄と金属で作られた作品です。

また、同じく彫刻部門の「福岡県教育委員会賞」には、服のシワをモチーフにした大学院芸術研究科博士前期課程1年の渡久地佑弥さん(九州産業大学付属九州高校)の作品「てらてら」が、「豊福知徳賞」には、芸術学部助手の寺本幸弥さんの作品「新天地」がそれぞれ選ばれました。

さらに、日本画部門の「西日本新聞社賞」には、地元の日常の風景をモチーフにした芸術学部芸術表現学科3年の瑞泉花楓さん(長崎日本大学高校)の作品「日常」が選ばれました。



11月の行事予定

●KSU VISION DAY 2023 文×理×芸=展

日時: 11月2日(木) 11時00分~17時00分

3日(金/祝) 10時00分~16時00分

会場: 大楠アリーナ2020

●自然災害発生に伴う安否確認訓練の実施について

日時: 11月8日(水) 09時30分~16時00分

対象: 全教職員及び全学生

●防火・防災訓練の実施について

日時: 11月16日(木) 12時40分~13時40分

会場: 3号館

対象: 当日建物内にいる教職員及び自衛消防隊員及び学生

教育・研究

理工学部  
アドバンスプログラム  
「就活プログラミング  
コンテスト」を開催

9月13日(水)、「アドバンスプログラム※」の一環として、理工学部の3年次生を対象に444(トリプルフォー)株式会社の協力による「就活プログラミングコンテスト」を開催しました。

同コンテストは同社が提供する、プログラミングスキルを可視化する測定ソフト「TechFUL(テックフル)」を使用し、プログラミング問題の回答時間や回答時のプログラミングコードの品質によって与えられる点数を競うものです。コンテストに加え、IT系企業11社によるオンライン合同会社説明会も実施し、コンテスト成績上位者には、これらの企業の選考過程の一部免除などの特典が与えられます。

15人の学生が対面・オンラインで参加し、2時間かけて、20のプログラミング問題に取り組みました。

※今年度新設したアドバンスプログラムは、未来を切り拓くために、目的意識の明確なやる気のある学生を対象に専門的な教育支援を行う選抜制の少人数教育プログラムです。理工学部の「プログラミングスキル“見える化”プログラム」では、競技プログラミングに参加することで、プログラミング能力や技術向上を目的とし、競技プログラミングに向けた特別指導などを行っています。





教育・研究

## 「観光地経営人材育成プログラム」が「ポストコロナ時代における観光人材育成事業」のモデル事業に採択されました

観光庁の「令和5年度ポストコロナ時代における観光人材育成事業」に、本学の「観光地経営人材育成プログラム」が採択されました。同事業には全国から16件の申請があり、今回採択を受けた6事業のうち、九州の大学は本学のみです。

本プログラムは、観光産業の国際競争力を向上し、稼げる地域・産業を実現するために、福岡県や福岡市を含む自治体、そして九州の観光関連団体との連携により、IT、マーケティング、会計、ファイナンス、マネジメントなどの知識や技能を習得できるプログラムを設け、地域の資源を最大限に活用しながら、価値創造と持続可能な観光地域づくりに貢献できる人材の育成を目指すものです。

カリキュラムは「観光地経営戦略」「観光地経営のアントレプレナーシップと事業開発」「観光地マーケティング」「観光地経営組織マネジメント」「地域観光のイノベーションと観光DX」「現代の観光地経営の動向」と観光地経営人材に求められる6つの分野知識・技能を効果的に習得できるよう構成されています。

プログラムの受講対象は、自治体、観光協会、DMO、観光系企業や次世代観光マネジメンントリーダー育成プログラム修了者を予定しています。

基本科目	応用科目	展開科目
基本的な知識、考え方を体系的に理解する	専門的な知識や高度な技術を深め応用力を高める	実践力と課題解決力を高める
観光ビジネス、経営の基礎固め		稼ぐ観光戦略 ツーリズム産業のグローバル戦略 持続可能な観光の取り組み イノベーションによる高付加価値 &生産性向上
イノベーション思考力 データ活用力		
テクノバートシンキング 新しいアイデアが生み出せる能力 関係者とのコミュニケーション能力		

教育・研究

## 九州の未来の観光を生み出す！ 「次世代観光マネジメンントリーダー育成プログラム」が開講しました



9月2日（土）本学本館にて、新たなリカレント教育「次世代観光マネジメンントリーダー育成プログラム」が開講しました。

開講初日、本学地域共創学部観光学科田代雅彦教授から、「観光×地域創生」について講義があり、9月3日（日）には、株式会社ビーワゴン田中徹代表から、「観光地域づくり法人（DMO）の役割や機能」をテーマに講義がありました。同講義内で受講生は「観光協会の未来」について、グループ討議を行い、組織活性化に向け意見を交わしました。

講義終了後、本事業総括責任者の千相哲副学長から、受講生に向けて本プログラムの目的やねらいについて説明を行いました。

教育・研究

## 福岡女子大学との 合同サマースクールを実施しました



8月24日（木）～ 29日（火）、福岡女子大学と本学の学生が共に学ぶ合同サマースクールを実施しました。

4回目となる今年は、「九州・福岡の歴史・文化・産業等について考える」をテーマに、計50名の学生が4日間の講義を受講しました。これまで新型コロナウイルス感染拡大防止の観点

からオンラインがメインでしたが、今年は全講義対面で実施されました。

学生は九州・福岡の言語文化や芸術文化、両大学と近代福岡の歴史などについて両大学教員の講義を受け、最終日には香椎宮に赴き、香椎宮の歴史や勅祭の話などを聴講しました。講義の後、貴重な資料が納められている資料室の見学や、境内でフィールドワークを行い、修復を終えたばかりの本殿や奥宮などを巡りました。

教育・研究

●KBC(9/8)

## 建築都市工学部の学生が 障がい者グループホームを設計！



9月8日（金）、建築都市工学部 住居インテリア学科香川治美研究室の学生が設計した、障がい者グループホーム「YOKATOKO南片江 式番館・参番館」の完成記念式典を行いました。

同施設は、学生が建設の際に、障がい者グループホームに適した立地調査、周辺環境との繋がりを期待したデッキの設置提案、近隣に建ちならぶ新築住宅と調和する外壁の色と素材の選定に取り組みました。また、居心地のよい住環境を重視した居室ごとに異なる色の壁紙といった、学生らしい新しい知見も採用されています。

教育・研究

●読売(7/24)、FBS(7/27)読売(7/28)、西日本(7/29)、朝日(8/7)、KBC・毎日(8/8)、長崎新聞(8/9)、毎日(8/10)

## 絵画でつなぐ戦争の記憶 「原爆体験絵画プロジェクト」

7月27日（木）、芸術学部芸術表現学科3年生の3人が、被爆者が証言活動を行う際に言葉だけでは伝わりにくい場面や状況を絵画によって伝える「被爆体験絵画プロジェクト」として制作した作品を、「福岡市原爆被害者の会」に寄贈しました。

同会による、「証言活動を行う際に、より具体的なイメージを伝えたい。写真でも伝えきれない感覚を絵画に詰め込んでほしい」との要請を受け、2022年11月にその思いに賛同した学生が、証言者と初めて対面。被爆当時の様子を聞きながら描くべき場面の確認と方向性を決定し、その後は個別の話し合いを数回重ねて絵の構図や色など細かく確認しながら進め、約8カ月かけて各自が1枚の絵（53cm×45.5cm）を描き上げました。





令和 5 年 9 月 26 日

ボランティア

九州北部豪雨  
ボランティアを派遣しました



7月16日(日)、17日(月)、九州北部での記録的な豪雨で被害を受け、1週間が経過しても土砂の掻き出しすらままならない朝倉郡東峰村に駆け付けた学生と職員計39人が、民家周辺の水路に流れ込んだ流木や土砂を撤去するなど復旧活動に尽力しました。

ボランティアセンター設立直後の現地から要請を受け、硬式野球部と準硬式野球部を中心としたボランティア隊を速やかに編成。経験とチームワークを生かし、水気を含んだ土をシャベルと一輪車やバケツで運び出し水流を復活させました。また、今回の豪雨で初めて被害を受けた山奥にある茶屋では、裏山から敷地に流れ込み20cmほど堆積した土砂を搬出したり、店の床上浸水部分の清掃などを行いました。

教育・研究

消えゆく日本の夏の風物詩ラムネを  
救え!「ラムネの涙2023」を開催

8月26日(土)・27日(日)、「&ローカルズ大濠公園」にて、芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生教授研究室が「ラムネの涙2023」を開催し、夏休み最後の週末ということもあり、多くの来場者で賑わいました。

毎年恒例の飲み終えた空き瓶を使って手作りラムネを作る「手作りラムネ会」やラムネの歴史やトリビアについて語るトークライブに加え、飲み終えた瓶から取り出したビー玉を使って遊ぶ「ラムネ迷路」や、「ラムネ色についての研究発表」を実施しました。



●毎日・西日本me<WEB>(8/25)、西日本・毎日(8/27)、TVQ(8/30)、TNC(9/1)、

スポーツ

日米大学選手権  
大久保監督率いる侍ジャパンが優勝!!



し、16年ぶり2度目の敵地優勝を果たしました。

7月7日(金)～13日(木)に、アメリカノースカロライナ州およびサウスカロライナ州で開催された「第44回日米大学野球選手権」において、本学硬式野球部大久保哲也監督【写真：右から2番目】が率いる大学日本代表「侍ジャパン」が、アメリカを3勝2敗で下

スポーツ

女子ハンドボール部創部5ヶ月で  
全日本インカレ出場権を獲得!

8月28日(月)～9月1日(金)に熊本で行われた「令和5年度第32回九州学生ハンドボールリーグ秋季大会」において3位入賞を果たした本学女子ハンドボールが、11月に北海道で開催される全日本インカレ出場権を獲得しました。

本学強化サークルにも指定されている本学女子ハンドボール部は2023年4月に創部したばかりで、部員は全員1年生。マネージャー2人を含む11人が所属しています。春季大会では2部リーグからスタートし、5月に実施された「九州学生リーグ春季大会」で全勝し、1部リーグに昇格、今大会で入賞し、創部5ヶ月で全国大会への切符を手にするという快挙を成し遂げました。

また、人間科学部スポーツ健康科学科1年の藤井美羽さん(福岡女子商業高校)が同大会で一部リーグ得点王に輝き、同学科1年長田花奈さん(鹿児島南高校)が優秀選手に選ばれました。



教育・研究

学生が企画・運営!  
市民参加型運動会を開催しました

8月11日(金・祝)、本学「大楠アリーナ2020」で、市民参加型運動会「産九(さんきゅう)スポーツ2023」を開催し、近隣地域在住の親子約70名が参加しました。

「産九スポーツ」は、コロナ禍でも楽しめる新しい形の運動会ができないかという思いから昨年度からスタートしました。今年度は、市民の交流促進や親子でスポーツを楽しむアフターコロナの市民参加型運動会として、人間科学部スポーツ健康科学科を中心とする学生15人が企画・運営を行いました。



10月の行事予定

●公開講座

(1) 大人のための絵画教室

講師：造形短期大学部 造形芸術学科 木森 圭一郎 特任講師  
日時：10月7日(土)10時00分～12時00分  
会場：16号館2階 デザイン実習室

(2) 大人のための運動教室

講師：健康・スポーツ科学センター 泉原 嘉郎 准教授  
深田 忠徳 准教授  
元嶋 菜美香 講師

日時：10月4日(水)・11日(水)・18日(水)

各回15時40分～17時10分

会場：学内



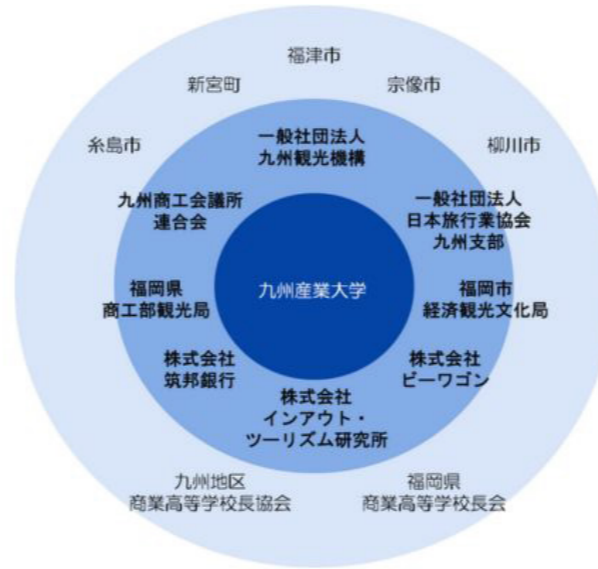
教育・研究

## 文科省「リカレント教育推進事業」に採択! 「次世代観光マネジメントリーダー育成プログラム」 9月に開講します

今秋開講する「次世代観光マネジメントリーダー育成プログラム」が、文部科学省「令和4年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択されました。

9月から行われる本プログラムは、観光関連事業に従事する経営層や中堅社員、観光まちづくりの関係者などを対象に、九州の地域特性を活かしながら観光マネジメントに取り組む人材に必要な知識やスキルを理論と実践から多角的かつ専門的に学び得る教育を行い、地域の観光産業で活躍できる人材を養成・育成することを目的としています。

「観光×DX（観光マーケティング）」「高付加価値とブランディング」「インバウンドビジネスとMICE」「観光経営・組織力」「現地学習」などのプログラムにおいて、本学教員や観光分野に従事する外部講師が講義を行います。



教育・研究

## 廃棄予定の亚克力パーティションを アップサイクルし動物の命を救う ガチャリティを実施

●FBS(6/22)、TVQ(6/24)、RKB(6/27)、TNC(6/29)  
読売(6/20)、毎日・朝日<紙面・WEB>(6/24)  
西日本(6/25)

芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生研究室では、コロナ禍で使用された「飛沫防止亚克力パーティション」の破棄問題と、動物の絶滅危惧種の加速度的増加という2つの社会課題にデザインの視点でアプローチする「亚克力動物プロジェクト『Aap (アアプ)』」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、コロナ禍で人間の命を守り続けながら不要となった飛沫防止対策用亚克力パーティションをアップサイクルし、野生動物の命を守るための活動支援に繋げる取り組みです。

プロジェクトの第一弾として、6月24日(土)～30日(金)ミーナ天神地下1階の「&ローカルズ」で、大学内の教室で使用した破棄予定の亚克力パーティションを使い学生5名がデザイン・制作した、絶滅危惧種の動物型チャーム15種類を販売する「ガチャリティ※」を実施しました。

当初の販売目標200個を大きく上回る422個を販売。集まった寄付金の76,600円は全額「日本動物園水族館協会」に寄付され、野生動物保護のために活用されます。

※「ガチャリティ」・・・伊藤教授が2011年から行っている通称「ガチャガチャ」を使ったチャリティ活動



教育・研究

●NHK・TNC・TVQ(6/8)、西日本(6/9)

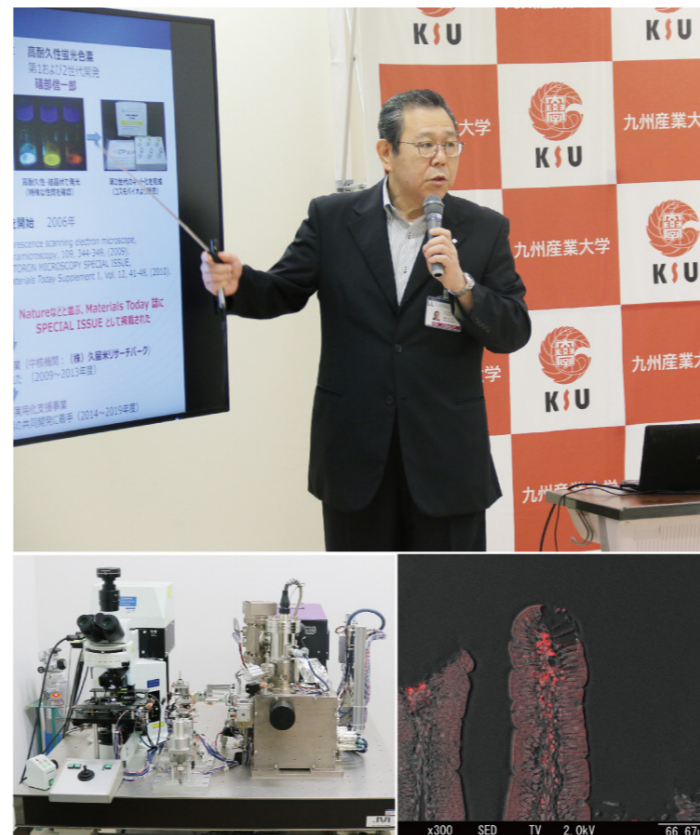
## 分子レベルの解析分野で運用可能な 世界初のカラー電子顕微鏡の製品化

九州産業大学(以下九産大)と、株式会社アイエスティー(福岡市南区 代表取締役 磯部信一郎 以下 I S T)、株式会社TCK(福岡市東区 代表取締役 小坂光二 以下 TCK)は分子レベルの解析分野で運用可能な世界初のカラー電子顕微鏡を開発し、TCKより「FST-1000」の名称で7月から販売します。

FST-1000は低倍率ながらカラー画像が得られる光学式顕微鏡と高倍率であるがモノクロ画像しか撮影できない走査型電子顕微鏡を組合せ、それぞれで撮影した画像を合成処理することにより両者の長所を融合した相関電子顕微鏡システムです。2種類の顕微鏡間の試料移送の位置合わせに、半導体製造装置の技術に応用した新たな試料搬送システムを開発することにより、専門の技術者の手を介さずに7,000倍の高倍率カラー画像を得ることを実現した世界初の全自動蛍光顕微鏡システムです。

また2013年、I S Tでは光や電子線に対する耐久性などの物理的安定性が高く室温で10年以上の長期保存が可能という特性を誇る、独自開発の国産初の免疫染色用蛍光色素(商品名Fluolid)を製品化しました。

今後、20,000倍対応の蛍光電子顕微鏡と蛍光色素を商品化して高度な分析要求に応えるとともに、継続して機能強化を進め基礎研究や臨床データ解析の高度化に貢献します。





教育・研究

「令和5年度九州産業大学派遣留学許可書交付式」を開催



5月31日(水)、「令和5年度九州産業大学派遣留学許可書交付式」を行い、5名の学生に許可書が手渡されました。

本学の派遣留学制度は、アメリカやドイツなど国際交流協定を締結した9つの

大学へ、交換留学として学生を派遣するもので、全員に奨学金が給付され、派遣先大学で取得した単位は学部の基準に従って認定されます。

令和4年度から再開された同制度は、書類選考や語学試験等を通じた国際交流に意欲的な学生のみ、許可書を受けとるが出来ます。北島学長からの激励を受けた5名は、9月からイギリスと韓国の大学にそれぞれ派遣されます。

教育・研究

●RKB(6/29)、西日本(6/30)

「八女福島の燈籠人形」背景幕を保存会へ寄贈しました



6月29日(木)、国の重要無形民俗文化財「八女福島の燈籠人形」保存会の方々が本学を来訪し、芸術学部芸術表現学科の3年生を中心に学生10人が制作した、人形芝居の舞台背景幕を同保存会へ寄贈しました。

今年で8回目を迎える同プロジェクトは、学生がからくり人形が映えるように、演目名から情景を汲み取ったアイデアを持ち寄り、下絵からデザインするものです。今年は演目「玉藻之前」の第二幕「河畔の月」の背景幕で、縦3m×横6mの作品です。

制作した背景幕は、9月21日(木)～24日(日)に行われる福島八幡宮境内の放生会でお披露目され、人形たちの物語を鮮やかに彩ります。

スポーツ

卓球部 男子ダブルス準優勝で全国大会へ!



5月12日(金)～14日(日)、熊本市総合体育館において「第74回全九州学生春季卓球選手権大会」が開催され、卓球部の秋

月雄斗さん【左】(商学部経営・流通学科4年、鞍手竜徳高校)と福永修吾さん【右】(経済学部経済学科4年、飛鳥未来高校)のペアが、113組がエントリーする男子ダブルスのトーナメント戦において準優勝を勝ち取り、10月に石川県で開催される「第89回全日本大学総合卓球選手権大会」に出場します。

ボランティア

福岡トライアスロン九産大生がボランティアで大会をサポート

6月25日(日)、福岡市東区志賀島周回コース51.5kmをスイム・バイク・ランで競う「福岡トライアスロン2023」に、九産大生122人がボランティアとして参加し、全国各地から集まった大学生から75歳までの出場者400人の選手をサポートしました。

事前研修を受けた学生たちは、前日の会場準備から大会当日の選手受付や沿道整備、給水補助やフィニッシャータオルの配布、大会後のごみ拾いなど多方面で活躍しました。また、芸術学部ビジュアルデザイン学科4年の川野風歌さん(京都高校)が、ボランティアスタッフ約400人が着るオリジナルロゴTシャツ(黄色)をデザインしました。



8・9月の行事予定

●公開講座

(1) 保育者のための実践講座「今すぐ使える保育のタネ」0・1・2歳児編

講師：人間科学部子ども教育学科 三原 詔子 准教授

日時：8月17日(木)14時00分～17時00分

会場：九州産業大学 3号館2階 レッスン室4

(2) 小学生対象「夏休み子ども図画(絵画)制作教室」

講師：造形短期大学部 成田 鐘哲 非常勤講師

日時：8月23日(水)・24日(木) 各回9時30分～12時30分

会場：九州産業大学 16号館2階 デザイン実習室

●前学期学位授与式

日時：9月8日(金)11時00分



令和5年6月16日

教育・研究

●長崎新聞(5/18)、西日本(5/25)、毎日<長崎版>(5/27)

## 長崎県とUIターン就職支援に関する連携協定を締結しました

長崎県の産業の次代を担う人材の育成・確保と地域の活性化を図るため、本学と長崎県は相互に連携し同県へのUIターン就職を促進することに合意し、5月17日(水)に「長崎県と九州産業大学とのUIターン就職支援に関する連携協定」を締結しました。

本協定に基づき、今後本学学生に向けて長崎県が運営する県内企業就職支援制度の案内を促進するとともに、学内でも長崎県内企業による就職相談会を行っていきます。また、学生と長崎県内企業との多様な接点を創出するため、長崎県内への企業研究ツアーの実施やインターンシップ受入先の拡大により、学生と長崎県内企業とのマッチングを推進します。



イベント

●RKB(5/26)

## キャンパスに幻想的な光「ホタル観賞会」を開催

5月25日(木)・26日(金)、キャンパス中央を流れる庭園水路で、地域の方を招いたホタル鑑賞会「HOTARU NIGHT」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、4年ぶりの開催となった今年は、学生や家族連れなど2日間で過去最多の約1,400人が訪れました。

来場者は街中ではあまり見ることの出来ないホタルの幻想的な光を楽しんでいました。

また、北門・楠風広場と15号館の建物には、芸術学部ソーシャルデザイン学科によるホタルをモチーフにした映像も投影され、「HOTARU NIGHT」を彩りました。



スポーツ

●西日本・スポーツニッポン・読売(5/23)、毎日(5/31)  
西スポotto!(5/22)<WEB>

## 硬式野球部春のリーグを制し全国大会へ

5月22日(月)、第52回福岡六大学野球春季リーグ優勝をかけて九州共立大学との最終戦に臨んだ硬式野球部は3対0で勝利し、春秋通じて45回目の優勝に輝きました。

2年ぶりに全国大会への切符を手にした九産大は、6月5日(月)から開催される「第72回全日本大学野球選手権大会」に出場します。



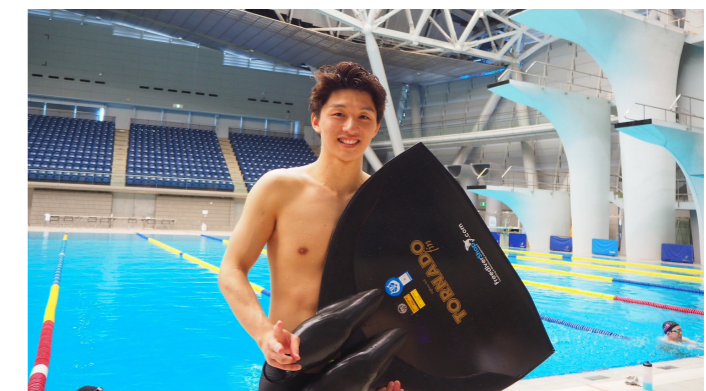
スポーツ

## 快挙!フィンスイミング日本選手権で金・銀メダル獲得!

水泳部フィンスイミングで経済学部経済学科4年の濱野真拡さん(九州高校)が、「第35回フィンスイミング日本選手権大会」において、400mSF\*で優勝、800mSFで準優勝し、金・銀メダルを獲得しました。

同大会は、5月4日(木)から5月6日(土)まで、横浜国際プールで開催された国内最大のフィンスイミング大会で、学生派遣記録を自己ベストで突破した濱野さんは、国際大会への出場権を獲得しました。

※呼吸法としてシュノーケルを使用。スタートとターンを除いて身体の一部が水面から出ていなければならないが、腕のかき方は自由な水法。





スポーツ

## 空手道部18人が 全日本選手権への出場権を獲得!

5月14日(日)、空手道部が「第64回全九州学生空手道選手権大会」に出場し、男子と女子の個人組手と、女子個人形で優勝しました。

今大会での3位までの入賞者15人と、全九州学生空手道連盟より推薦を受けた3人の計18人は、7月2日(日)に姫路市立中央体育館で開催される「第67回全日本学生空手道選手権大会」に出場します。



教育・研究

●RKB(5/12)

## 4年ぶり制限なしの「学文祭」で キャンパスに賑わい

5月18日(木)～21日(日)に学術文化の祭典「第44回学文祭」を開催し、週末は10団体の模擬店が出店する中、多くの来場客で賑わいをみせました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、4年ぶりに制限なしの開催となりました。

ステージでは、競技ダンス部によるパフォーマンスや漫画研究部の「九産ライダーショー」、学外からは九州産業高校吹奏楽部による演奏や須恵高校書道部のパフォーマンスなどが繰り広げられ、会場を盛り上げました。



教育・研究

## プロカーモデラーの講義を受け、 クレイカーモデリングを実践!

5月23日(火)～25日(木)、自動車メーカーマツダのプロカーモデラー5人を講師に迎え、カーデザイナーが描いた2Dのデザイン画を、クレイ(工業用粘土)を用いて3Dモデルにするクレイカーモデリングのワークショップを開催しました。

カーデザインの現場で実際に働いている人から直接に教わる実践的な学びにより、専門技術だけではなくデザインに対するプロの考え方などに触れることを目的とした今回のワークショップ。芸術学部生活環境デザイン学科の2・3年生で、カーデザインやカーモデリングに興味を持つ学生11人が受講し、基本的なクレイの造形技術を教わったうえで、実際にクレイモデル制作しながらマツダのデザインに対する考え方などを学びました。



## 7月の行事予定

●オープンキャンパス【大学・短大】

「学部学科の魅力説明会」「在学生によるプレゼン」「R6年度入試説明会」「志望理由書の書き方講座」「キャンパス見学ツアー」「模擬授業・体験実習」「学生生活・留学・奨学金・サークル・教職についての相談会」「入試相談会」「学食体験」「保護者対象講演会」などを行う。

日程：7月16日(日)1回目  
7月23日(日)2回目  
両日ともに本学で開催

●公開講座

(1)小学生対象(未経験者のみ)

「はじめてのサッカー教室」【全2回】

講師：健康・スポーツ科学センター 泉原嘉郎 准教授

〃 深田忠徳 准教授

人間科学部スポーツ健康科学科 中尾武平 准教授

日程：7月25日(火)、7月26日(水) 9時30分～10時40分

●英語講座

(1)小学生対象「夏休みキッズイングリッシュ」

主催：語学教育研究センター

日程：7月31日(月)～8月2日(水)【3日間】



令和5年5月24日

スポーツ

●西日本(4/26)

## 準硬式野球部 春季リーグ全勝で11季連続優勝!!

準硬式野球部が、令和5年度福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦を8戦全勝で11季連続優勝を果たしました。

キャプテンで人間科学部スポーツ健康科学科4年の江口倫太郎さん（藤蔭高校）【写真・中央】は、「目標である全国大会優勝に向けて、今リーグ戦は1試合1試合課題を持って臨みました。特に打線を繋ぐために、チームプレイ・戦術の向上に取り組んだことが今回の結果に繋がりました。まずは九州大会、目の前の試合に集中して戦いたいです」とリーグ戦を振り返り、今後の意気込みを語りました。

「第75回全日本大学準硬式野球選手権大会」への出場をかけて、5月20日（土）から開催される九州選手権大会に挑みます。

《表彰》

- 最優秀選手賞 : 高橋 大夢  
(経済学部経済学科4年・宮崎日本大学高校)
- ベストナイン捕手 : 森 将太郎  
(商学部経営・流通学科3年・星琳高校)
- ベストナイン二塁手: 城戸 駿利  
(人間科学部スポーツ健康科学科3年・東福岡高校)
- ベストナイン遊撃手: 中上 翔一朗  
(人間科学部スポーツ健康科学科4年・筑陽学園高校)
- ベストナイン外野手: 吉村 航之介  
(人間科学部スポーツ健康科学科2年・香椎高校)



スポーツ

●KBC(4/21)、西日本(4/23)、読売(5/3)

## ベンチプレスジュニア93kg級で全国優勝!

1月に千葉県で開催された「第24回ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会」のジュニア93kg級（対象19歳～23歳）において、重量180kgを挙げて優勝した商学部経営・流通学科4年の武田大和さん（九産大付属九州産業高校）が、4月21日（金）に福岡県の大曲昭恵副知事を表敬訪問しました。

ベンチプレスはベンチ台に横たわった状態で、胸の上でバーベルを押し上げるパワーリフティング競技のひとつ。柔道のトレーニングの一環で、中学1年生からベンチプレスに挑むようになった武田さんは「挙げた重さが数字となって現れるため、自分の努力で極めることができる点がこの競技の魅力。年内の大会で重量200kgを記録したいです」と意気込みます。

武田さんは、9月に北海道で開催される「2023アジアベンチプレス選手権大会」に出場予定です。



教育・研究

## 商学部学生が企画した 「あまおうサンド」を休暇村志賀島で 期間限定販売

商学部は2016年から休暇村志賀島と、志賀島の観光促進や地域貢献を目的とした連携プロジェクトに取り組んでいます。この度、学生がプロジェクトの一環で企画した志賀島産のあまおうを使った「あまおうサンド」が休暇村志賀島の甘味処「あいらん堂」で販売されます。

学生は、若者の間で流行っている写真映えのキーワード「萌え断」（食べ物の断面を目で楽しむ）をテーマにし、海風でより甘く育ったあまおうを、味だけではなく見た目も楽しんでほしいという思いから「あまおうサンド」を企画しました。



教育・研究

## 地域共創学部行平講師が 総務省「地域力創造アドバイザー」に

2023年4月1日（土）、地域共創学部地域づくり学科の行平真也講師が、総務省の「地域力創造アドバイザー」に登録されました。

「地域力創造アドバイザー」は、地域活性化の専門家として総務省に登録され、地域独自の魅力や価値の向上に取り組む自治体からの依頼を受けて地域の活動に従事するもので、総務省が自治体に対して財政支援を行う制度です。2023年4月時点で全国に各分野の専門家約500名が登録されており、本学では初めての登録となります。





教育・研究

## 「第3回振袖スタイリングフォトコンテスト」で特別賞を受賞

写真製造業や振袖レンタル業を手掛ける株式会社東京プロカラーラボ主催の「第3回振袖スタイリングフォトコンテスト」で、芸術学部写真・映像メディア学科4年の加藤茜さん（古賀竟成館高校）の作品「キュアあかちゃん」が、審査員特別大賞に選ばれました。

今年で3回目となる同コンテストは、一生に一度の「成人式」という大切な行事で、唯一無二の自分らしさをアピールしてほしいという思いで開催しており、「自分なりの振袖スタイリング」のテーマに約120点の作品が集まりました。

加藤さんは、「着物の“和”に、皮の小物を取り入れることでロックテイストに仕上げました。自分の振袖をコーディネートする貴重な機会に、『将来、子どもに自慢できるような振袖にしたい』という思いで取り組み、満足いくものが出来上がりました。評価されたことは今後の作品制作の糧となります」と話します。



教育・研究

## 立花寮で自衛消防隊訓練を実施しました

4月8日（土）、立花寮で自衛消防隊訓練を実施しました。

毎年実施するこの訓練は、今春、新たに入寮した230名の新入生とともに、火災・災害時の連携方法を確認し、防火・防災意識の向上を目的とするものです。

当日は、2階厨房からの出火を想定し、消防署への通報や初期消火、避難誘導など、消防署員が到着するまでの自衛消防隊としての役割を確認しました。

訓練後は、4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化された改正道路交通法の

施行に伴い「自転車安全講習会」を開催し、福岡県東警察署担当者から交通事故の原因と対策、自転車の乗車マナーなどを学びました。



イベント

●西日本(4/12)  
共同通信<WEB>・産経<WEB> その他地方紙19紙(4/8)

## 「Red Bull Doodle Art 2023 日本決勝」が本学美術館で行われました



4月8日（土）、本学美術館3F オープンスペースにて「Red Bull Doodle Art 2023日本決勝」が開催され、7,076点の応募から予選を通過した10人のファイナリストが集結しました。今回で4回目となるRed Bull主催のこの大会は、ラクガキの芸術性を競う学生限定のコンテスト。豊富なインスピレーションと想像力、アートスキルを披露するものです。

審査員で本学造形短期大学の卒業生でもあり、2017年世界チャンピオンの豊増彩華さんは「生きることへの執着」をテーマにしたチャンピオン加藤さんの作品に対し、「辛いことも乗り越えてきた加藤さんの強さが作品にも表れていて、アートにかける熱い思いが伝わってくる作品だ」とコメントを述べました。

## 6月の行事予定

### ■学生生活相談会

地方の後援会支部総会に出席された保護者を対象に、本学の教育と取り組みを理解いただき、修学相談や就職の現状報告などを行う。

日程：5月27日（土）～7月15日（土）までの土曜日・日曜日  
九州・山口各県をはじめとする福岡県外の12 地区で開催

### ■公開講座

#### (1) 大人のための絵画教室

講師：造形短期大学部 木森 圭一郎 特任講師  
日程：6月 3日（土）、6月10日（土）  
7月22日（土）、7月29日（土）

#### (2) 経済安全保障を考える 一経済学の視点から

講師：地域共創学部 秋山 優 教授  
日程：6月16日（金）

#### (3) 子ども理科実験教室

講師：生命科学部 平山 智之 准教授  
日程：6月25日（日）



教育・研究

●NHK・RKB(4/11)、毎日新聞(4/12)

## スタンフォード大学との連携プログラム開講!



4月11日(火)、2号館1階グローバルプラザにてスタンフォード大学SPICE\*との連携教育プログラム「Stanford e-KyuSan-U」の開講式を行いました。

オンラインで参加したSPICEディレクターのGary Mukai氏が「ゲストスピーカーやインストラクター、他の学生のさまざまな意見に耳を傾け、相手が考えや気持ちに共感することを大切にし、お互いの意見を尊重しながら学んでほしい。このプログラムが実りあるものになることを願っている」と学生を

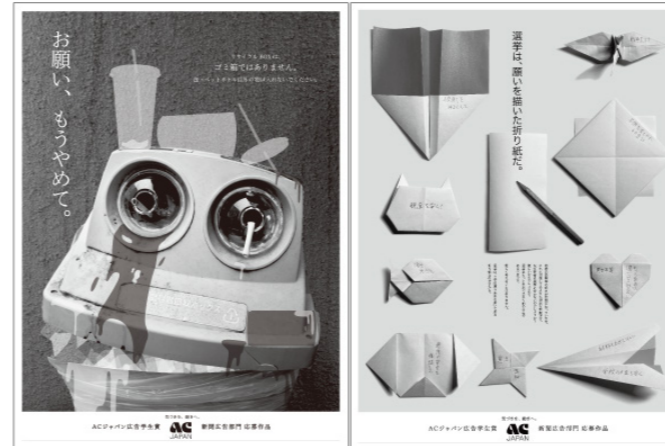
激励しました。その後、今回の開講式の為に来日した、同プログラムのSPICE担当インストラクター玉川麻衣子氏がオリエンテーションを実施。「知識を得るだけではなく、固定概念にとらわれず多角的に物事を分析し、そこから自分の意見を発展させ、更にそれを共有することで、互いに学びを深めてほしい」と述べました。

※Stanford Program on International and Cross-Cultural Education

教育・研究

●河北新報<WEB>(3/30)

## 第19回ACジャパン広告学生賞」で審査員特別賞を受賞!



「第19回ACジャパン広告学生賞」において、芸術学部ビジュアルデザイン学科3年の白石桜子さん(春日高校)のリサイクルBOXのマナーをテーマにした作品「お願い、もうやめて。」と同学科4年の堤雄仁さん(久留米商業高校)の、投票用紙を折って投函する行動を、皆が親しみのある折り紙に例えた作品「選挙は、願いを描いた折り紙だ。」が新聞広告部門で「審査員特別賞」を受賞しました。

2005年に設立されたこのコンテストは、若い世代が広告制作を通して公共広告への理解を深め、「公」への意識を育むことを目的とするもので、今年は全国からテレビCM部門に302作品(41校)、新聞広告部門に過去最高の660作品(36校)の応募がありました。

教育・研究

●ニッキンONLINE(3/23)

## 遠賀信用金庫との「産学金連携事例」を報告



3月23日(木)、遠賀信用金庫との「産学金連携事例報告会」を開催し、当庫福岡地区の支店長や本学教員など関係者

約40人が出席しました。本会は、2021年8月に包括連携協定を結んだ遠賀信用金庫の取引企業との更なる連携を促進することを目的としています。

報告会では、芸術学部と珍味や豆菓子の企画・製造卸を行う株式会社福豊堂の「パッケージデザインプロジェクト」や造形短期大学部と移動販売車の製造・販売を行う株式会社誠矢製作所の「移動販売車の内外装デザインプロジェクト」、同じく造形短期大学部と株式会社B.Continueグループ企業の業務用冷凍魚の加工などを行う株式会社福岡丸福水産の「包装紙開発プロジェクト」など3事例を報告しました。

教育・研究

## 「ウクライナ学生支援写真展」の寄付金を贈呈しました



短期滞在学生として受け入れている2人のウクライナ人学生を支援しようと、大学院芸術研究科百瀬俊哉教授研究室の学生5人がチャリティーイベント「ウクライナ学生支援写真展」を開催し、集まった寄付金をウクライナ人学生に贈呈しました。

2月19日(日)～26日(日)に開催した芸術学部と芸術研究科の卒業・修了制作展「九芸卒展2023」において、1点1,000円以上の寄付をいただいた方に対して、ウクライナ製カメラで撮影した学生作品をプレゼントし、大学を通して寄付の全額をウクライナ人学生2人に寄付するもので、約100点を出品しました。

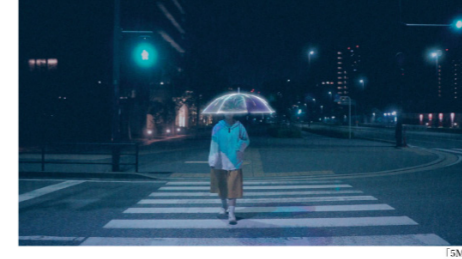
3月30日(木)の贈呈式では、学生や教職員、同窓会楠風会会員の支援により集まった61,000円と、筥崎宮の夕景など日常を切り取った作品が手渡されました。

教育・研究

## 「福岡市美術展」洋画・彫刻・デザイン部門で最高賞受賞!



「第54回福岡市美術展」の洋画・彫刻・デザイン部門において、最高賞の「福岡市長賞」をそれぞれ受賞しました。洋画部門の受賞作「おもかげ」は、芸術学部芸術表現学科3年の園田舞衣まいさん(必由館高校)が母親のおもかげを宿しながら成長する「20歳の自分」を繊細なタッチで描いた、縦130cm×横162cmの油彩画です。



彫刻部門の受賞作「クララ」は、造形短期大学部を今春卒業した赤石達哉さん(中村学園三陽高校)が、実家で飼っていた大切な家族である犬の「クララ」をモチーフに、木彫ならではの木の温もりに加えて、面のつながりや存在感を表現した幅70cm×高さ110cmの像です。

また、芸術学部写真・映像メディア学科3年の石森菜々さん(西南学院高校)が作詞・作曲・編曲・ボーカル・キーボードと撮影・編集を手掛けたデザイン部門の受賞作「5ML(ミリリットル)」は、「胸にある悲しみを小さじ1杯分(=5ML)だけ加えたら、自分の人生はきっと美味しく豊かになる」というメッセージを込めた、3分15秒のミュージックビデオです。



教育・研究

## 第3回Cygamesクリエイティブコンテストで「学校賞」受賞

Cygamesが主催する次世代クリエイターの育成を目的とした「第3回Cygamesクリエイティブコンテスト」で、芸術学部ビジュアルデザイン学科4年の渡邊美希さん（九産大付属九州高校）と藤岡空美さんが、過去最高の応募総数2,000点の中から13名が選出された「学校賞」を受賞しました。

渡邊さんの作品「リリィとルル～Re◆make～」【左】は、裁縫が得意な妖精とくまのぬいぐるみのアドベンチャーゲームを想定したファンタジックな作品に仕上げました。審査員からは、「とにかく細かく描きこまれていて衣装やメインキャラクター、サブキャラクターやライバルに至るまで魅力が伝わるように仕上げている、非常に意欲的な作品」と評価。藤岡さんの作品「ヴェネ&ソニヤ」【右】は、ドクロをモチーフとしたキャラクターを明るく元気な女の子に設定。審査員からは、「『ドクロを描きたい』という熱意の伝わる作品。キャラクターの良さを出すことに心血を注いだことが伝わる」と評価されました。



教育・研究

## 表面技術協会九州支部「優秀学生賞」受賞!



生命科学部を今春卒業した山本真衣さん（防府高校）の発表「液相還元法を用いたナノセルロース水溶液中での銀微粒子合成に関する研究」が、一般社団法人表面技術協会九州支部の「優秀学生賞」を受賞しました。この賞は、金属などの素材を処理する技術である「表面技術」に関わる分野を専攻する優秀学生を表彰するものです。

受賞した研究は、低刺激で抗菌・保湿効果があるAg（銀）を利用した、化粧品への応用を可能とする基材の製造にあたって、不純物を取り除く透析処理を行い純度の高い銀を取り出した後、均一で安定性がある銀微粒子を生成させるための促進剤がグルコース（ブドウ糖）であることを結論付けたものです。

教育・研究

●TNC(3/8)、朝日(3/20)

## 芸術学部と理工学部の学生が「開運おみくじアプリ」で不正乗車を防止



芸術学部と理工学部の学生28人が、JR九州と連携し、西戸崎駅（福岡市東区）から宇美駅（糟屋郡宇美町）を結ぶJR香椎線が抱える課題解決や利用者促進のための「JR九州応援プロジェクト」に取り組んでいます。第一弾として、3月8日（水）から4月30日（日）の期間、不正乗車防止を目的とする「開運おみくじアプリ」の実証実験を開始しました。

この他にも同プロジェクトとして、車両内の忘れ物として最も多い「傘」をテーマにした忘れ物防止ポスター7種類を制作し、3月2日（木）からJR香椎線各駅および香椎線を行く819系「DENCHA」車内ドア上部に掲示しています。

教育・研究

## 宗像市離島の魅力発信パンフレットを制作しました



地域共創学部地域づくり学科行平真也講師の「ゼミナールⅡ」を履修する3年生12人が、宗像市の大島と地島の魅力を発信するパンフレット「ちょっと船旅!」を制作しました。新型コロナウイルス感染症により観光客が減少している離島の大島と地島の魅力を伝える「大島・地島!

魅力発信プロジェクト」として実施したもので、“日常からワープする25分の船の旅”を楽しんでもらおうと、観光スポットと両島へ渡るフェリーの利用方法について写真を多用しながら解説しています。

このプロジェクトは、大島・地島の地域活性化を目的とした活動に交付される「宗像市元気な島づくり事業補助金」に採択されています。

スポーツ

●読売(4/2)

## 第52回福岡六大学野球春季リーグ開幕!!



「第52回福岡六大学野球春季リーグ」が、4月8日（土）に九州産業大学グラウンドで開幕しました。

春季リーグは、勝ち点制（先に2勝したチームが1点）で順位を争い、優勝校は、6月5日（月）から明治神宮野球場や東京ドームで開催される「第72回全日本大学野球選手権記念大会」の出場権を得ることができます。

<今後のスケジュール>

- 4月29日（土）14時00分～ VS 福岡工業大学（PayPayドーム）
- 4月30日（日）11時30分～ VS 福岡工業大学（九州共立大学野球場）
- 5月6日（土）11時30分～ VS 九州共立大学（九州共立大学野球場）
- 5月7日（日）9時00分～ VS 九州共立大学（九州共立大学野球場）
- 5月13日（土）11時30分～ VS 福岡教育大学（九州共立大学野球場）
- 5月14日（日）9時00分～ VS 福岡教育大学（九州共立大学野球場）

## 5月の行事予定

■学文祭

学文祭は、本学の学術文化サークルが、日頃の活動の成果を発表する学術文化の祭典です。

日程：5月18日（木）～ 5月21日（日）



教育・研究

●KBC・TNC(2/21)、日本経済<WEB>(2/22)、読売・日本経済(3/8)

## 令和5年度よりスタンフォード大学SPICEとの連携教育プログラムを開始します

九州産業大学は、在福岡米国領事館の協力のもと、4月よりスタンフォード大学SPICE\*と、共同で世界的課題の解決を図るグローバル人材の育成を目指し、九州の大学では初めてとなる連携教育プログラムを開始します。

スタンフォード大学が展開する多文化理解教育プログラム（SPICE）を、本学向けプログラム「Stanford e-KyuSan-U」にアレンジし、本学独自の全学横断型グローバル人材養成教育である「グローバル・リーダーシップ・プログラム」の中に組み込んで開講するもので、スタンフォード大学SPICE担当講師やゲストスピーカーが、「多様性（Diversity）」「持続可能性（Sustainability）」「起業家精神（Entrepreneurship）」という3つのテーマについて、九産大生に英語でオンライン授業を実施します。

2月21日（火）、スタンフォード大学SPICEのディレクターであるゲイリー・ムカイ氏【写真中央】と在福岡米国領事館首席領事のチュカ・アシーケ氏【写真右】と共に、報道関係の皆さんに概要を説明しました。

※Stanford Program on International and Cross-Cultural Education



教育・研究

## 「第29回環境フォト・コンテスト」大学生部門で大賞を受賞

大学院芸術研究科博士前期課程2年の竹村さくらさん（小倉南高校）の作品「ミステリーサークル」が、プレジデント社主催の「第29回環境フォト・コンテスト」大学生部門で、大賞の「環境大臣特別賞／環境フォト特別賞」を受賞しました。地球環境の“今”やサステイナブルな未来を表現するフォトコンテストで、全国から16,016点の応募がありました。

「あなたのとりにある地球環境」をテーマにした受賞作は、波打ち際に捨てられたビニールなど漁業で使用された“資源ごみ”の中に立つ“女性”を写したもので、7月に志賀島の海で撮影。資源ごみが作る色鮮やかな輪の中に立つことで、忍び寄る環境破壊の脅威を表現しています。



教育・研究

●西日本(2/24)

## ソラリアプラザで「九産大プロデュース展 2023」を開催しました

2月23日(木)～26日(日)、ソラリアプラザ1階のイベントスペースにて、約30の企業・団体と取り組んだ23のプロジェクトの成果を展示する「九産大プロデュース展2023」を開催しました。

会場には、後藤博多人形株式会社と共同開発した手のひらサイズのひな人形「ひいな」や、学生の感性を生かしてデザインした今宿人形「猿面」などの伝統工芸品をはじめ、病院や企業と連携して開発した重心移動訓練装置や、理工学部と芸術学部の学生が協力し製作した家具ロボットなど、学生の知恵が詰まった150点以上の作品を展示しました。



教育・研究

## 「第10回GKP広報大賞」で準グランプリを受賞

地域共創学部地域づくり学科佐藤忠文講師研究室の取り組み「大学生によるデザインマンホール蓋の広報効果研究」が、下水道広報プラットフォーム主催「第10回GKP広報大賞」で準グランプリを受賞しました。

下水道インフラの価値向上に寄与した広報活動事例を表彰する「GKP広報大賞」は今年で10回目を迎え、堺市上下水道局や北九州市などを含む10団体がエントリーされました。

受賞した取り組みは、“マンホール”と呼ばれるファンが増えた昨今、メディアとしての「デザインマンホール」に着目し、北九州市と佐賀市でのマンホールの視認率調査やアンケート調査を通して、マンホールの広報効果を検討したものです。



教育・研究

## 「発明・工夫コンテスト」で学会長賞を受賞

人間科学部子ども教育学科清水陽子教授研究室のプロジェクト保育案「光と影の美『新しい子どもの遊び環境の創造』～紙飛行機のこーきが見た銀河鉄道の夜～」が、「第17回技術教育創造の世界（大学生版）発明・工夫コンテスト」その他の部門の学会長賞を受賞しました。

「光と影の美」をテーマにした子どもの“遊び環境”づくりを提案するこの保育案は、積み木とLEDライトを用いて、童話「あかりのありか～こーきとぎんがてつどうのよる～」(きみきみよ著、宮澤賢治原著)の世界を造形化し、光と影の関係性や色の重なりについて自発的に学ぶものです。

この保育案を通して子どもたちは、主人公の紙飛行機・こーきが見た銀河鉄道の夜景をモチーフに、光源を反射させたりふさいだりしてできる光の作用を体験することで、創造力や発想力、集中力などを養うことができます。





教育・研究

## 「ベトナム向け筑後うどん」の新メニューの最終報告会を行いました

2月22日（水）、商学部の学生が、久留米商業高校で、同校生徒と開発した「ベトナム向け筑後うどん」の新メニューの最終報告会を行いました。

今回、九産大の学生が発案し高校生がネーミングした「うなぎうどん」は、「ウナギ」から出る旨みと甘くコクのあるタレがだしに染み出し、「ふんわり粘りごし」の麺に絡む一品で、昨年9月に開催された「久留米焼きとり日本一フェスタ」でのテスト販売の反応をもとに改良を重ね、メニュー化したものです。筑後地方の特産品であり、ベトナムでもなじみのある「ウナギ」を使うことで、筑後うどんの活性化に加えて、「一吉うどん」のホーチミン店における筑後うどんの普及も目指しています。



教育・研究

## 「第18回学生インテリアデザインコンテスト」で最優秀賞を受賞

芸術学部生活環境デザイン学科4年の松井健人さん（九産大付属九州産業高校）の作品「こつこつ 骨×家具の研究」が、公益社団法人日本インテリアデザイナー協会主催の「第18回学生インテリアデザインコンテスト」で最優秀賞を受賞しました。

受賞作は、背骨と肋骨に見立てたパーツからなる幅65cm×高さ110cmの椅子で、背骨と肋骨が臓器を守る役割を果たすように、座る人を包み込む形状になっています。



教育・研究

## 建築都市工学部諫見准教授が「本建築家協会ゴールデンキューブ賞」受賞

建築都市工学部住居・インテリア学科の諫見泰彦准教授による「アート・サイエンスコミュニケーションと地域貢献に関する踏査および実践研究」が、公益社団法人日本建築家協会主催の「ゴールデンキューブ賞2020/2023」組織部門特別賞を受賞しました。同准教授の受賞は、2014年に続き、9年ぶり2回目となります。

研究の一環として実施したプロジェクト「積み木であかりのワークショップ」は、子どもたちが題材童話「あかりのありか」（きみきみよ著）の世界を、積み木やLEDライトを使って表現するもので、光源を反射させたりふさいだりしてできる光の作用を学びながら、美しいあかりの作り方を自発的に考える造形教育実践です。



教育・研究

## 「アジアデジタルアート大賞展」AIアートアワード受賞

芸術学部芸術表現学科羽太広海准教授の作品「人工知能は宮廷画家の夢を見るか？」が、「2022アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」で「AIアートアワード」を受賞しました。

受賞作は、AI画像生成ツールを活用して制作された縦91cm×横72cmのバロック調の人物画で、AIの描画に透明の油絵具で加筆することで立体的に仕上げた精緻な3連作です。技術進歩に伴い、画家の専売特許である描画を担ったAIが、人間だけが所有できると考えられてきたクリエイティブの世界を揺るがし、その結果生み出されたAIによる美の可能性を追求しています。



## 4月の行事予定

■令和5年度入学式

日時：2023年4月1日（土）

《午前の部》午前10時00分～

経済学部、商学部、地域共創学部、芸術学部

《午後の部》午後2時00分～

理工学部、生命科学部、建築都市工学部、国際文化学部、人間科学部、編入学、造形短期大学部、大学院

会場：大楠アリーナ 2020

※入学式の模様は、当日、ホームページからもLIVE配信します。



教育・研究

●毎日(1/18)

## 高齢者見守りシステム開発のためのソフトウェアの寄贈を受けました

理工学部機械工学科と人間科学部臨床心理学科は、昨年4月より有限会社BONDと「高齢者の見守りにおけるアバターの応用」に関する共同研究を進めており、1月17日（火）、同社代表取締役古川ひろ美氏より、アバターに搭載するシステム構築のための音声合成ソフトウェアの寄贈を受けました。

この共同研究は、同社が開発したキャラクターの動作や表情を連動させる音声通話システム「スマートアバター Smartavatar®」を搭載したアプリケーションを開発し、リハビリを行う高齢者がアプリケーションに実装したアバターとコミュニケーションを取ることで、高齢者の行動変容を促すものです。これまで、開発に必要な音声合成ソフトウェアは同社からの貸与を受けて研究を進めてきましたが、このたび共同研究を加速するため、同社から音声合成ソフトウェア「ボイスソムリエ ネオ」28点（6,132,000円相当）の譲渡を受けることとなりました。

今後は高齢者とアバターとのコミュニケーションデータを蓄積し、リハビリ環境の改善や転倒などの異常事態を事前に検知しケアセンターへ報告を行うシステム構築を目指します。



教育・研究

●JIJI.com WEB(1/20)

## 大東建託株式会社とDIYソロワークブースを共同開発

建築都市工学部住居・インテリア学科香川治美教授研究室と大東建託株式会社が開発したDIYで設置できるソロワークブース「HACOCE（ハコス）」を共同で開発し、同社公式オンラインストアで販売されています。

コロナ禍におけるニーズの高まりを背景に開発した「HACOCE」は、DIYで設置できる、間口110cm×奥行き120cm×高さ237cmの木造の移動式パーソナルブースで、強度や遮音性、断熱性に優れており、部屋を改造することなく好きな場所にワークスペースを設置できます。また、お部屋の雰囲気に合わせて内外装をカスタマイズできます。

同社との連携は初めてで、学生たちはデザイン提案のほか、実証実験において組み立て時の難易度などを検証し、商品化に向けて改良を重ねました。

この製品は本学1号館1階メインホールにて展示しており、利用が可能です。



教育・研究

## 「ターナーアワード2022」で大賞を受賞!

大学院芸術研究科博士前期課程1年の水本了さんの作品「Cigarette horse」が、ターナー色彩株式会社主催の「ターナーアワード2022」で大賞を受賞しました。“若い学生アーティストの第一歩”を応援しようと1990年に始まったこの公募展は、今年で33回目の開催です。

受賞作は“タバコ”の煙で“馬”を表現した116.7cm×80.3cmの作品で、タバコがもたらす解放感を馬が草原を駆ける爽快感に例えており、暗黒の荒野を背景にタバコの煙の白さを対比的に表現しています。

審査員からは、「スナップが利いた筆勢でモチーフを表現しており特長的である」、「動物とも人間とも見える奇想天外なフォルムで、作者から画題の『謎解き』を問い掛けられたようだった」と評価されました。



教育・研究

●西日本(1/27)

## 「第9回まちなみ写真コンテスト」で市民賞を受賞

大学院芸術研究科博士前期課程1年の木下史雄さんの作品が「第9回まちなみ写真コンテスト」において入選し、市民投票で決まる「市民賞」を受賞しました。

「福岡市都市景観賞」に選ばれた建築物や公園などを被写体にしたコンテストで、今年是一般部門に456点の応募がありました。

受賞作品「2021天神イムズのフィナーレ」は、32年間の歴史に幕を下ろした天神イムズの閉館セレモニーで撮影した一枚です。





教育・研究

## 「主張する『みせ』学生デザインコンペ」で奨励賞を受賞

芸術学部生活環境デザイン学科3年の江島千晴さんと高野真子さんが、「第20回主張する『みせ』学生デザインコンペ」で、奨励賞を受賞しました。

このコンペは、まちづくりやみせづくりなどの商業施設づくりに対する意識啓発と発想力や表現力などの技術向上を目的に、2003年から開催されているもので、今年は全国から497点の応募がありました。

江島さんの受賞作は「Parasol World」。現実世界と並行して存在する別の世界を意味する“Parallel World”に“Parasol”（傘）を組み合わせたもので、“みせの本質は新しい出会いや新たな発見の場”という思いから、最も大切な「会話」から出会いが生まれるように、ほのかな照明によって柔らかい光に包まれたパラソルの空間を提案しました。



教育・研究

●西日本(1/18)、毎日(1/22)

## 芸術学部卒業生・湯浅政明氏が「福岡県文化賞」に選出!

福岡県の文化の向上・発展への貢献が顕著な個人、団体を表彰する「第30回福岡県文化賞」の創造部門に、本学芸術学部卒業生（1987年卒）でアニメ監督の湯浅政明氏が選ばれました。

湯浅氏は、映画「マインド・ゲーム」（2004年）で「第8回文化庁メディア芸術祭」のアニメーション部門の大賞を、映画「夜は短し歩けよ乙女」（2017年）で「第41回オタワ国際アニメーション映画祭」長編部門のグランプリを、映画「夜明けを告げるルーのうた」（2017年）で「第41回アヌシー国際アニメーション映画祭」長編部門の「クリスタル賞」を受賞するなど、国内外で高い評価を得ています。

また、室町時代に実在した能楽師を主人公にした劇場アニメーション「犬王」（2022年）は、「第26回ファンタジア国際映画祭」で長編アニメーション作品のグランプリにあたる「今敏賞」などを受賞するとともに、アニメ界のアカデミー賞と呼ばれる「第50回アニー賞」の「長編インディペンデント作品賞」と「脚本賞」にノミネートされています。



教育・研究

●KBC・FBS(1/20)、西日本(1/21)、毎日(1/23)

## 留学生が福岡県庁や福岡市役所を訪問して豆まきを行いました

1月20日（金）、本学で学ぶ中国・ベトナム・ウクライナからの留学生10人が、服部誠太郎福岡県知事や高島宗一郎福岡市長を訪問し、福岡県庁や福岡市役所をはじめ市内18カ所で、七福神や鬼に扮して豆まきを行いました。

2月3日（金）に東長寺（福岡市博多区）で開催される「節分大祭」のPRを兼ねて、留学生に日本文化を体験してもらおうと企画されました。



教育・研究

## 東警察署より「女子学生のための防犯推進協議会」に感謝状

1月24日（火）、創意工夫を凝らした防犯活動を行い東区民の防犯意識の向上に貢献したとして、福岡県東警察署から、福岡市東部地域エリアの3大学（九州産業大学、福岡女子大学、福岡工業大学）で構成される東部地域大学連携「女子学生のための防犯推進協議会」に感謝状が授与されました。

3大学は共同で、性犯罪防止動画の制作やJR香椎駅などでの性犯罪防止に関するチラシ配布などを行い、東区民への注意喚起に努めました。





教育・研究

●電気新聞(12/8)、読売新聞(12/14)、電波新聞(12/20)

### ローカル5Gを利用した共同研究のユースケースを発表

九州産業大学と株式会社QTnetは、2021年5月に締結した「共同研究契約」に基づき、九産大キャンパスに独立したローカル5Gネットワークを構築し、外部ネットワークの制限を受けない5G環境において、「超高速」「超低遅延」「多数同時接続」という5Gの特長を生かした新たな利用方法などの研究を進めています。

2022年3月に完了したローカル5Gネットワークは、キャンパス内の屋外3カ所と「大楠アリーナ2020」に2カ所、計5カ所の基地局から構成されるネットワークで、九産大キャンパス(約22万㎡)の屋外約70%に加えて、同アリーナのメインフロア(2・3階)とエントランスをカバーしています。

12月7日(水)、両者で報道関係の方々に、キャンパス内で行っている実際の利用シーンを想定したスポーツや芸術分野を中心に、さまざまなユースケースの紹介を行いました。



教育・研究

### 韓国・培材大学校総長が北島学長を表敬訪問

11月28日(月)、国際交流協定締結校である韓国・培材ペジェ大学校のKIM SEON JAE総長が、北島己佐吉学長を表敬訪問しました。

2019年に国際交流協定を締結して以来、交流を重ねてきた両者ですが、総長が本学を訪れるのは初めてです。



教育・研究

●西日本新聞(12/17)

### 人形師・中村信喬氏による鹿のモニュメントが完成

キャンパス内に、高さ約5mの大きな鹿のモニュメントが出現しました。芸術学部卒業生で美術館の客員教授を務める人形師・中村信喬氏が制作したモニュメント「WILL GATE」という作品で、本学後援会の卒業記念事業として設置したものです。

「希望の門」という意味を込めたこの作品は、志賀海神社がある東区志賀島にかつて多く生息し境内にも飾られている“鹿”をモチーフにした、長さ約4.8m×幅約1.4m×高さ約4.8mのアルミ製のモニュメントで、本学の校章に用いられている「楠」と「椎」の葉の文様が全身に彫られており、胴体の下を通り抜けられるように工夫されています。



教育・研究

### 「アート&デジタルキャンパス」開催

12月19日(月)から12月26日(月)まで、九産大キャンパスで、芸術学部学生によるプロジェクションマッピングや写真展、電気工学研究部のイルミネーション、経済学部による学内見学ツアーなど、文系・理系・芸術系が一体となるイベント「アート&デジタルキャンパス」を開催しました。

期間中は、LEDのクリスマスイルミネーション(北門から17号館)やLEDのクリスマスツリー(15号館3階渡廊下)などでキャンパスが彩られ、12月22日には、北門・楠風広場で、たくさんのキャンドルライトと風船の映像で幻想的なクリスマスの風景を映し出すビデオプロジェクション「BALLOONS BRING 2022」を、

15・17号館の壁面には写真・映像メディア学科で学ぶ学生の写真展など、屋外でも楽しめる展示を行いました。



教育・研究

●TVQ(12/11)

### サンタたちが行進するチャリティーイベント「福岡サンタウォーク in 千早」を開催

12月11日(日)、経済学部の学生10人が「福岡サンタウォーク in 千早」を開催しました。

サンタクローズの衣装を着てみんなで楽しく千早の街を歩き、参加費の一部から病気などの困難に立ち向かう子どもたちにクリスマスプレゼントを贈る地域密着型チャリティーイベントで、コロナ禍で3年ぶり4回目の実施となります。

地元のゴスペル集団「all fruits」の演奏と本学体育会執行部チアリーダーのパフォーマンスによるオープニングセレモニーに送られた参加者105人は、「ガーデンズ千早」のちはや公園を元気に出発し、国道3号線を越えてなみきスクエアを回り、ちはや公園に戻る約40分のコースを笑顔で歩きました。

イベント終了後には、参加費から衣装代を除いた寄付金101,139円を、福岡市立こども病院に寄贈しました。



教育・研究

●西日本新聞(12/17)

### デザイン力で新たな門出を彩るワークショップを開催

12月17日(土)・18日(日)、木の葉モール橋本で、造形短期大学の学生が、デザインしたシールをランドセル用の透明カバーに貼り付けてオリジナルのランドセルカバーを制作するワークショップを開催しました。

NPO法人「次世代のチカラFUKUOKA」と共同で実施したこのイベントは、寄付されたランドセルを無料配布する同法人の「ランドセルバンク」という取り組みに共鳴した学生が、デザイン力で中古ランドセルへの否定的なイメージを払拭しマインドチェンジを図りたいとシールをデザインして企画した「ランドセル+αプロジェクト」です。



教育・研究

### 「撮る博物館プロジェクト」博物館の新たな一面を

本学大学院生や芸術学部、商学部の学生24人が九州国立博物館を撮影する「撮る博物館」プロジェクトを実施しました。昨年4月から同館4階文化交流展示室での撮影が可能になったことにより、学芸員が細部までこだわった展示室や文化財の魅力を発信しようと同館と学生が企画したもので、同館のメインロビーに展示された作品は、入館した1万8千人に披露されました。

11月30日(水)、本学内にて表彰式が行われ、博物館職員や学芸員からの投票により最優秀賞に選ばれた芸術学部写真・映像メディア学科2年の甲斐菜月さんら上位3名が表彰されました。





教育・研究

## 建築学科矢作教授 九州の建築家で最多! 14回目の「グッドデザイン賞」

建築都市工学部建築学科の矢作昌生教授が設計した「阿部野の住宅」が、2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。2019年度の受賞に続き14回目の受賞で、九州の建築家で最多受賞です。

テーマは、「ハード面を担保したライフスタイルの変化への柔軟な対応」。住宅と商業施設が入り混じった都心の密集地において、強度と耐火性能を担保しつつ子育てを終えてからの将来を見据えた柔軟性のある家にしたいと、4人家族の戸建て住宅を依頼された矢作教授は、準防火地域内の15坪極小地に、クライアントの希望を実現する3階建ての家をデザインしました。



教育・研究

## 若手作家の登竜門 「Idemitsu Art Award 2022」に 入選しました

出光興産株式会社が主催する公募展「Idemitsu Art Award 2022 (旧シェル美術賞2022)」で、芸術学部芸術表現学科3年の真崎茜さんの作品が、入選を果たしました。

入選作「物体I」は、“怖い”をテーマに、ブルーシートに覆われた人の様子を描いた作品で、見る人の包まれた物体への想像をかきたて、怖いもの見たさで思わずブルーシートをめくりたくなってしまふような縦162cm×横112cmの油彩画です。



教育・研究

## 「国際学生“社会的EV”デザインコンテスト2022」 で「経済産業大臣賞」を受賞!

大学院芸術研究科博士前期課程2年の濱崎皓心さんの作品「AIR TRAIL」が、「国際学生“社会的EV”デザインコンテスト2022」において「経済産業大臣賞」を受賞しました。このコンテストは、社会デザインとEV（電気自動車）の可能性の研究を通して次世代を担う融合型人材の育成を目的とするもので、今年は「“社会デザインとEV”2040の提案」をテーマに、国内外の82チームが参加しました。

受賞作「AIR TRAIL」は、高度に発達した3Dプリンタによりビル建設が容易になり、新しい都市での交通網整備が追い付かないという2040年の世界を想定して、誰もが自由に道を造り、人・物の迅速な輸送を可能にする新しい移動手段を提案するものです。ドローンを使って出発地から目的地までカーボンナノチューブ製の人工筋肉のトンネルと人が入るシェルを造り、シェルの外側の電圧変化により、人工筋肉を伸縮させることでシェルが進む仕組みです。



教育・研究

## 「ETロボコン2022 チャンピオンシップ大会」 競技部門全国制覇



11月17日(木)にパシフィコ横浜で開催された「ETロボコン2022チャンピオンシップ大会」において、理工学部情報科学科の3年生と4年生のチームが、それぞれプライマリークラスとアドバンストクラスで競技優勝を果たしました。全国大会での優勝は、2009年から挑戦し続けて以来初めての快挙です。

日本各地の地区大会を勝ち抜いた40の精鋭チームがしのぎを削る本大会は、プライマリークラスとアドバンストクラスの2クラスに分かれて開催され、3年生は「KERT-B3」、4年生は「Smart Reborns」として九州予選を突破し出場しました。

教育・研究

## 学生制作のオブジェが 「デザイン学生シンポジウム2022」で最優秀賞を受賞

芸術学部芸術表現学科と生活環境デザイン学科の学生が制作したオブジェ「ぺたぺたまーち」が「デザイン学生シンポジウム2022」で最優秀賞を受賞しました。本シンポジウムは、自由な発想でアイデアや研究成果を発表するエデュケーションプログラムで、全国の大学・専門学校から応募がありました。

受賞作は東区芸術文化祭のメインオブジェとして制作したもので、スニーカーを模した長さ5m×幅2.5m×高さ1.6mの作品で「透明な巨人が街を歩くことで鮮やかな花が咲き、彩り豊かな街並みに変えていく」という思いを込めています。

この作品は東区芸術文化祭終了後、1月13日(金)から2月末まで「大楠アリーナ2020」のエントランスで展示しています。



教育・研究

## 子ども病院にだまし絵が出現♪

12月14日(水)～27日(火)、経済学部と芸術学部の学生17人が、福岡市立こども病院の1階ロビーを、クリスマスをテーマにしたトリックアートで飾りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったチャリティイベント「福岡サンタウォーク」の代わりに、コロナ禍であっても入院している子どもと家族、医療従事者の方々が笑顔になるようなイベントをしたいと3年前に始めた企画です。今年は「福岡サンタウォークin千早」を3年ぶりに実施し、同時開催となりました。“サンタと友達になれるトリックアート”をテーマに、「こどもサンタににんめい」「かざりつけのおてつだい」「プレゼントはこびのおてつだい」「サンタさんからのサプライズ」の4つの作品で表現しました。





教育・研究

## 「ダイバーシティ推進シンボルマーク」が決定しました

「ダイバーシティ推進基本方針」に基づき多様性を尊重する大学の実現を目指す九州産業大学は、学生から「ダイバーシティ推進シンボルマーク」を募集し、芸術学部生活環境デザイン学科4年の加藤大地さんのデザインが採用されました。

障がいのある方や幅広い世代の方に情報が伝わるよう配慮したユニバーサルデザインと、“すべての人が学び合い、能力を高められる大学を目指し、あらゆる人々の活躍促進に貢献する”という「SDGs 推進方針」に沿ったデザインをテーマに選ばれた加藤さんのデザインは、本学のシンボルツリーである大楠をモチーフに、大学を根、社会を幹とし、大学から社会全体に広がっていく様子を多様性を表すレインボーカラーを用いて表現しています。

このシンボルマークは、ダイバーシティ推進の啓蒙活動のツールとして、今後、本学のポスターやステッカーなどで展開していきます。



教育・研究

●ニツキンONLINE(10/29)

## 香椎のまちにプロジェクションマッピングの花火

10月29日(土)、香椎駅近くの2階建新築ビル「KASHII SQUARE」(福岡市東区香椎)のオープニングイベントとして、芸術学部ソーシャルデザイン学科岩田敦之准教授研究室の学生ら9人が、ビルの壁に花火や提灯をプロジェクションマッピングで映し出すイベントを行いました。

「縁日～縁を結ぶ日～」と銘打ったこの企画は、福岡信用金庫と株式会社JUKENから同ビルの認知と香椎のまちを盛り上げてほしいと依頼があったもので、学生たちは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地元の「FUKUOKA 東区花火大会」が中止になっていることや、近隣に小学校があり香椎のまちが子育て世代が多いことから、子どもたちが喜ぶ「縁日」と「花火」をキーワードに6分間の映像を制作。BGMに合わせて繰り返し流し、ビルのイメージアップと賑わいを演出しました。



教育・研究

●RKB(11/4)

## 「第24回福岡デザインアワード」大賞受賞!

芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生教授がデザインした“海洋プラスチックごみアップサイクルプロジェクト「SEA you again」の一環として、NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会と小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で開発しました。

福岡県と福岡県産業デザイン協議会が主催するこのコンペティションは、オリジナリティーと市場性を有しデザインに優れた中小企業が製造・販売する商品を表彰するもので、24回目となる今回は、全国98社から120点の応募がありました。



受賞した「mu」は、伊藤研究室が参加する海洋プラスチックごみアップサイクルプロジェクト「SEA you again」の一環として、NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会と小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で開発しました。

また、銀賞には、コロナ禍での夏祭りの中止によりラムネが出荷できない製造会社を救おうと、同じく伊藤研究室が企画した「ラムネの涙プロジェクト」から、手作りラムネキット「ラムネ工場」と杖立温泉(熊本県阿蘇郡小国町)の新たなおみやげ「恋のぼりラムネ」が選ばれました。

教育・研究

## ビール酒造組合国際技術委員会(BCOJ)「功績賞」受賞!

生命科学部生命科学科金田弘学教授が、ビール酒造組合国際技術委員会(Brewery Convention of Japan:BCOJ)の「功績賞」を受賞しました。

ビール酒造組合国際技術委員会は、ビール醸造に関わる分析法の統一や製造技術の交流による科学的・技術的研究の促進に加えて、目的を同じとするアメリカの American Society of Brewing Chemists (ASBC) やヨーロッパの European Brewery Convention (EBC) と協働し活動しています。

金田教授は、BCOJの分析委員を5年歴任するとともに、ビールの品質劣化など香味耐久性の研究からのどごしを測る感性科学まで幅広い分野で先進的な研究を行い日本の技術力の発信に努めたこと、査読付き論文を掲載する学術雑誌「Journal of the ASBC」の編集委員(Editorial Board)を17年歴任するなど、醸造技術の国際的な発展に貢献したと評価されました。





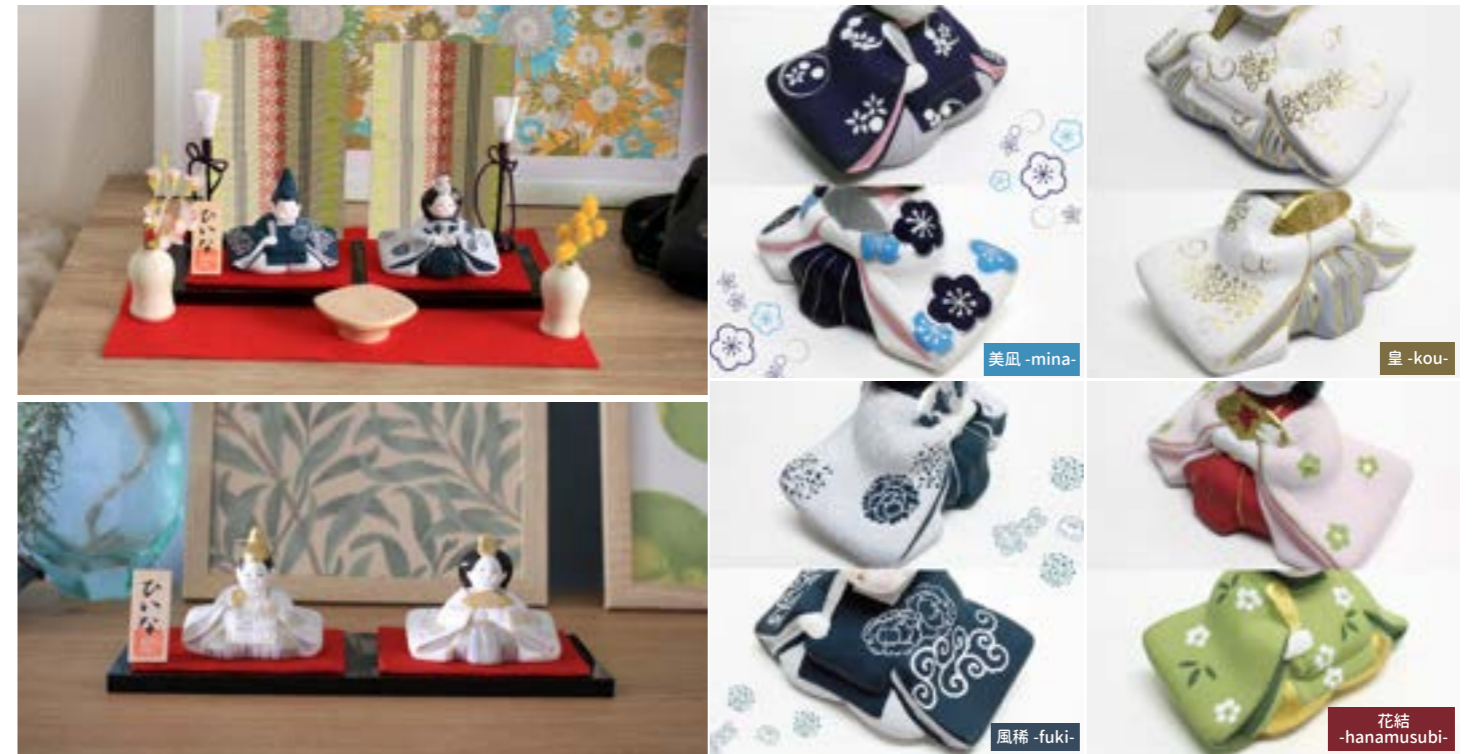
教育・研究

## 学生デザインの手のひらサイズ博多人形「ひいな」 今月まで注文受付中

芸術学部ソーシャルデザイン学科4年の安田美菜さんと後藤博多人形株式会社（春日市）が共同で開発した手のひらサイズのひな人形「ひいな」を、吉語屋株式会社（福岡市博多区）がクラウドファンディングサイト「Makuake」で注文を受け付けています。

ひいなとは、「ひな祭り」の起源とされる、平安時代に貴族の子女の間で流行したお人形遊び「ひいなあそび」から名付けたもので、20代後半から30代の大人の女性をメインターゲットに、“都会にマッチするスマートひな”をテーマとした4種類をデザインしました。

バルト海周辺国をイメージした「美凧 -mina-」、結婚式をモチーフにした上品な「皇 -kou-」、和洋室どちらにもマッチする「風稀 -fuki-」、ポップで可愛らしく柔らかい雰囲気「花結 -hanamusubi-」と名付けた4種の「ひいな」は、健やかな成長や幸せを願う日本独特の文化「ひなまつり」を気軽に楽しんでほしい、福岡の伝統工芸品「博多人形」に触れてほしいという2つの思いを込めています。



教育・研究

## 造形短期大学部学生の作品たちが天神を鮮やかに彩っています

造形短期大学部井上博樹教授と野呂英俊非常勤講師、学生7人の有志が、海洋漂着ゴミで制作した「海ごみサンドアート」とツリーオーナメントが、12月25日（日）まで大丸福岡天神店（福岡市中央区）で開催されている「2022 White Bless Christmas『冬のウミテラシ※が願うクリスマス』」に彩りを添えています。

株式会社博多大丸と対馬市、株式会社日比谷花壇、株式会社イングラと連携した「対馬 SDGs ミライテラシプロジェクト」の一環として実施したもので、対馬市での実地調査を踏まえて、同市の海に漂着した海洋プラスチックごみを使って対馬の美しい空と海を表現した縦1,800mm×横2,700mmのサンドアートと、漂着した発砲スチロールと土に戻る繊維質のアセテートを用い、ウミテラシの花を表現したオーナメントを制作しました。

11月12日（土）に開催された点灯式セレモニーでは、プロジェクトリーダーで同学部造形芸術学科1年の合田夢さんが、深刻な海洋プラごみ問題を多くの人に知ってもらいたいと他大学の学生などとともにトークセッションを実施しました。

※白い花が海一面を照らすことから呼ばれる、対馬市に群生するモクセイ科の落葉樹。



教育・研究

## 地域の6次産業化や活性化を応援する 「マルシェ」を開催

不揃いで出荷できない野菜や果物を使ってジャムなどの農業加工品販売に力を入れる企業など10店舗を集めた「マルシェ」を、11月5日（土）の香椎祭期間中に九産大キャンパス内で開催しました。

「おSUNっぽマルシェ」と銘打ったこの企画は、食の安全にこだわりつつ食品ロスを出さない思いを、ストーリーとして製品と一緒に消費者に届け、地域の6次産業化や活性化を応援するプロジェクトで、学部横断型科目「実践クロス演習（旧カリキュラム：実践力育成演習）」を受講する16人が、出店者募集から開催までこぎつけました。





教育・研究

●ニッキンONLINE<WEB>(11/4)

## 「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」を開催しました

九州産業大学は、11月3日(木・祝)・4日(金)に「大楠アリーナ2020」で、「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」を開催しました。

本学の研究者が有するシーズや研究成果を一挙にまとめて紹介し、企業の技術課題などのニーズ発掘や事業化につなげ、地域社会の発展や課題解決に貢献するもので、文系・理工系・芸術系129のブースが出展し、約1,300人が来場しました。

11月4日には、株式会社QTnet代表取締役社長岩崎和人氏による、「未来を拓くII～Try anything new～」と題した基調講演を実施。iPhoneなどさまざまなビジネスモデルの成功事例を挙げながら、「ものの見方や考え方が劇的に変化するパラダイムシフトの連続において、常識にとらわれずに創意工夫を重ねながら、『昨日より今日、今日より明日』の精神で進化し続けたい」と語りました。



教育・研究

●毎日(11/6)

## 女性警察・消防職員による女子学生のための座談会を開催しました

10月25日(火)に図書館前広場で、福岡県警察と福岡市消防局と共同で、「女性警察職員・女性消防職員との座談会～安全と安心を守る女性たちとのフリートーク～」を開催しました。

女性の社会進出や男女共同参画などの意識醸成を図るキャリア教育の一環として実施したもので、地域の安心・安全を支える公安職への興味と理解を深めて職業選択の一助とするため開いたものです。

当日は、女子学生22人と福岡県警察からは刑事部や交通部など警察本部各部に所属する女性職員10人が、福岡市消防局からは災害救急指令センターや防災センターに所属する女性職員2人が参加し、グループに分かれてフリートークを実施。職務内容ややりがい、ライフスタイルやキャリアプラン、公務員試験受験など、幅広いテーマで語り合いました。

また、学生たちは、パトカーや白バイ、消防車両などの乗車体験のほか、刃物から身を守るための耐刃防護衣や消火活動の際に担ぐ空気呼吸器などの説明を受けていました。



教育・研究

## 日本経営診断学会「研究奨励賞」を受賞!

地域共創学部観光学科森下俊一郎准教授の論文「宿泊業における訪日外国人客へのおもてなしとそのマネジメント」が、日本経営診断学会の「研究奨励賞」を受賞しました。

この論文は、外国人観光客に評価の高い「山城屋」(大分県由布市湯布院町)、「澤の屋」(東京都台東区谷中)、「富士箱根ゲストハウス」(神奈川県足柄下郡箱根町)の現地調査とインタビューの結果を分析し、外国人観光客を引きつけるための方策を論考したものです。

三者に共通しているのは、外国人観光客に対する日本人客と同質の家庭的なおもてなしの徹底に加えて、ホームページや施設利用案内を多言語対応するなどの環境整備のほか、浴衣の貸し出しや、お茶会や三味線演奏会、折り紙や空手の講習会などの開催を通じた日本文化体験の充実を図ることで、外国人にも家庭的な温かさを感じられるおもてなしを徹底していることです。

高級ホテルや老舗旅館のうやうやしいホスピタリティー、ビジネスホテルの過不足ないサービスなど、外国人観光客に不便を感じさせない工夫とは一線を画して、昔ながらの古い和室や内装と安心感を与える家庭的なおもてなしが外国人観光客にとっての魅力だと結論付けました。



教育・研究

## パラリンピック金メダリストの講演会を開催しました

10月19日(水)、本学卒業生でパラリンピックゴールドメダリストの小宮正江氏の講演会を開催し、学生と教職員約150人が参加しました。

多様性を尊重する大学の実現に向けたダイバーシティ推進事業の一環として、インクルーシブ教育への理解促進を目的として開催したもので、小宮氏は「挑戦!今よりも一歩成長するために!」をテーマに、ゴールボールとの出会いから学んだこと、多様性を受け入れて生きることの重要性、心のバリアフリーを持つことなど、安全で安心して過ごせる社会の実現について講演しました。





教育・研究

## 「ETロボコン2022九州北・九州南地区大会」で総合優勝

10月2日(日)に福岡SRPセンタービル(福岡市早良区)で開催された「ETロボコン2022九州北・九州南地区大会」において、理工学部情報科学科の3年生チーム「KERT-B3」がプライマリークラスで総合優勝に輝きました。さらに、4年生チーム「SmartReborns」がアドバンスクラスで競技優勝(走行体タイム)を果たし、特筆する部分があったという理由で特別に「ワイルドカード」として全国から選抜されました。

この大会は、設計したソフトウェアを搭載した走行体の自律走行する速さを競うコンテストで、走行体の設計図の完成度と指定コースでの走行体のタイムで総合順位が決まります。

「KERT-B3」と「SmartReborns」が九州地区代表として出場する「チャンピオンシップ大会」は、11月17日(木)・18日(金)にパシフィコ横浜(神奈川県横浜市)で開催されます。



教育・研究

●西日本<北九州・京築版>(10/31)、毎日<北九州版>(11/9)

## 旦過市場火災の復興支援を行っています

10月24日(月)から、芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生教授研究室が、2022年4月と8月に火災にあった旦過市場(北九州市小倉北区)の復興を支援しようと、北九州市のデザイナー岡崎友則氏と共同でチャリティー活動を行っています。

通称「ガチャガチャ」の自動販売機を同市場内に設置し売り上げの一部を市場に寄付する活動で、ガチャガチャの中身は、同市出身の俳優リー・フランキー氏や同市在住の国際的なイラストレーター黒田征太郎氏など北九州市ゆかりの作家6人が旦過市場への思いをデザインした直径44mmのオリジナル缶バッジ2個です。

リー氏の絵本作品「おでんくん」や岡崎氏が作成した「旦過市場のロゴ」などを組み合わせた7種類のカプセルが、同市場内の「ベニーズコーヒー」にて500円で販売中です。



ドラフト会議

●読売・西日本スポーツ・スポーツニッポン・河北新報(11/1)、日刊スポーツ<WEB>・サンケイスポーツ<WEB>(11/8)、西日本スポーツ(11/9)

## 東北楽天ゴールデンイーグルスのスカウト部長が渡辺翔太投手に指名挨拶

10月31日(月)、東北楽天ゴールデンイーグルスの後関昌彦スカウト部長と大久保勝也スカウトが、ドラフト3位指名した硬式野球部の渡辺翔太投手(地域共創学部地域づくり学科4年・北九州高校)の指名挨拶のため来学しました。

大久保氏は、「変化球の多彩さや完成度の高さはプロでも通用するレベルで、良い意味でマイペースなところが持ち味。白星を積み安定したピッチャーになってほしい」と期待を寄せました。

また、育成枠では、11月7日(月)に、広島東洋カープが2位で指名した中村貴浩外野手(商学部経営・流通学科4年・九州国際大学付属高校)に、8日(火)には、阪神タイガースが1位で指名した野口恭佑外野手(地域共創学部地域づくり学科4年・創成館高校)に、各球団関係者が指名挨拶のため来学しました。



課外活動

## 準硬式野球部秋季リーグ全勝で10季連続優勝!!

準硬式野球部が、令和4年度福岡県大学準硬式野球秋季リーグで、10季連続優勝を果たしました。

10月10日(月)の九州共立大学との試合で勝利を収め、リーグ戦10戦全勝で翌日の最終戦を前に優勝が確定しました。

